

4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(4) パブリックスペース計画

パブリックスペース計画として、主として外部空間の整備を行う。それぞれの空間の特徴や内部空間との関係を捉え、特色のある整備を行う。

オープンスペースの性格付けとして、Plaza、Park、Courtの3つの広場を整備し、それらの連携を図ることでキャンパス全体の屋外空間の快適性の向上を目指す。

また、阪神淡路大震災時に地域住民の避難場所や被害調査の為に拠点、更には復興の拠点となった実績を踏まえ、地域の防災拠点として位置づけ整備を行う。

① キャンパス各ゾーンのシンボル空間として、広場 (Plaza) を設ける

これらの広場 (Plaza) は、各教育研究ゾーンのシンボル空間として機能し、学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。また、高台にある防災拠点としての広場の役割も担うことができるように計画する。整備に当たっては、木々や現存する歴史的な痕跡 (六甲台2 団地西側のサークルやツリーなど) を残す配慮を行う。

② 歩行者路の結節点や入口付近に広場 (Park) を設ける

これらの小さな広場 (Park) は、Footpassの結節点で学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。

③ 建物に囲まれた四角い中庭 (Court) の整備を行う

四角い中庭 (Court) は、研究や講義の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。農学部・理学部の玄関まわりのCourtは学部の顔としての整備を行う。

④ 食堂周辺を International cafe 化するなど国際的雰囲気を出し、コンベンション機能の充実も図る。また、居住環境の向上など、学生への支援環境の充実を図る。

⑤ サインの整理とデザインの統一化を行う。また、国際的拠点大学として多くの外国からの留学生への情報提供のためサインの多言語化を行う。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2 団地)

(5) キャンパス動線計画

a. 車両交通

キャンパスの屋外空間の景観・アメニティーの質を下げているキャンパス内の通路及び屋外広場への駐車・駐輪への対策として、駐車場・駐輪場は各ゾーンの入口付近に集約させ、キャンパス内の自動車・バイクの通行・駐車を極力なくす計画とし、徒歩で安心・安全に移動できるキャンパスを目指す。

搬入や搬出のためにキャンパス内での車両の通行が必要となるが、車両の主要動線上にはハンプ (Hump) を設け、スピードを抑制するための対策を行い、歩行者との共存を図る。

b. 歩行者交通

キャンパス内は徒歩による移動を主要な手段とし、それらの歩行者(Footpass)は快適に移動ができるよう歩行者をメインにした屋外環境整備を行う。

- ①「上のみち」を設定し、敷地のレベル差を解消できる計画とする。
- ②「下のみち」を設定し、環境整備を行う。また、文・理・農学部と工学部の広場(Plaza)をつなげる「下のみち」を計画する。
- ③「ウリボーロード」を延長し、六甲台2団地と六甲台1団地をつなぐ林間コースを計画する。
- ④ Footpassは登録有形文化財の見学のための散策、日頃の散歩や登山コースとして地域に開放できるように整備する。
- ⑤ 共通教育カリキュラムを受講する多数の学生に配慮し、鶴甲1 団地からバス停へスムーズなアクセス路を整備すると同時に鶴甲2 団地までの徒歩アクセス改善を図る。
- ⑥ 工学部へのバス停からの歩行者路を拡幅し、バス停からの歩行者動線に配慮する。
- ⑦ 阪急六甲からの徒歩で通学する場合の学内メイン通学路の整備を行う。
- ⑧ ユニバーサルデザインを進め、バリアフリーへの対応を行う。
エレベーター・自動扉・スロープ・手すり・多機能トイレ・点字案内板・誘導ブロック・車椅子専用駐車場など、全ての人が、安心して過ごせるキャンパスづくりを目指して、バリアフリー設備の拡充に努める。



4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-1. 六甲台キャンパス (六甲台1・六甲台2・鶴甲1・鶴甲2団地)

(6) 景観計画 (緑地計画とランドスケープデザイン)

六甲山系から海へとつながる大きな環境の中で明治時代から受け継いできた豊かな緑と環境を地域の大切な資源と考え、保全・継承を図る。

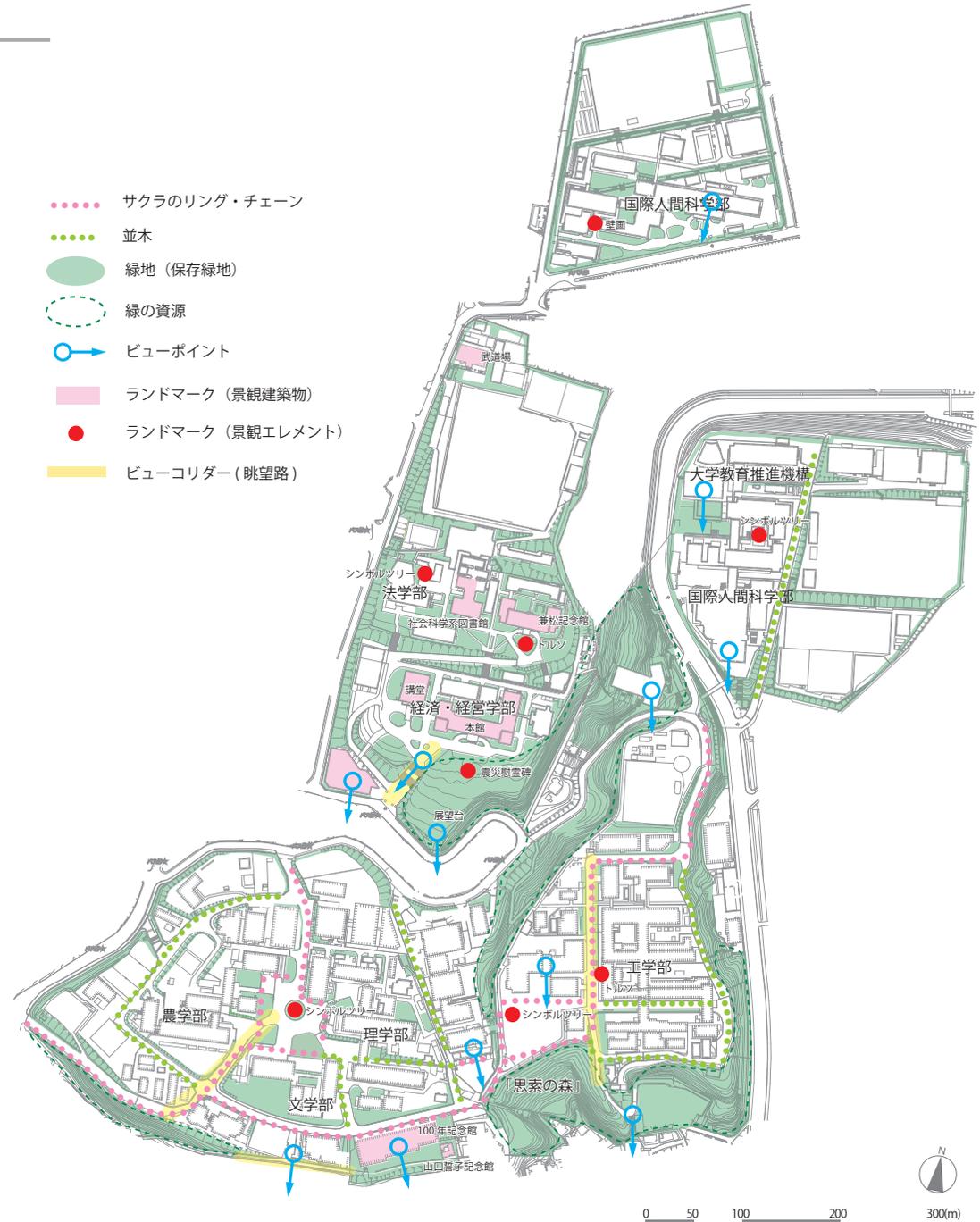
長期スパンの緑化整備方針・ランドスケープ方針をつくるため、学生・教職員・教員の協力組織をつくり、長期的に取り組む。

これからの方向性として次のようなことが考えられる。

- ① 遺すべき景観・記憶に残る景観を位置づけ継承する。
 - ・モニュメント・記念植樹・シンボルツリー・歴史的建造物などをキャンパスランドマークと位置づけ、このランドマークを中心にそのまわりを整備し、広場とする。
 - ・眺望の良い場所(ビューポイント)や眺めの良い道を「眺望路(ビューコリダー)」としてより整備し活かし、神戸大学らしいキャンパス景観をつくる。
- ② キャンパスの緑化を徹底し、既存緑地とつなぎ、活かす。

既存緑地は全て保存することを原則とする。建物を建設してもよい所と、してはいけない所を峻別し、建物整備を行う際も緑地の総量確保の取り決めが出来る事とする。
- ③ 特徴ある斜面地の緑化と有効利用を計画し、斜面の中に小広場のクラスターなどをつくり、緑の散策路、緑の屋外教室などを考える。工学部南側に位置する緩斜面の森を「思索の森」として整備し、研究や講義の合間のリフレッシュのための場とするなど、神戸大学の資産として有効活用する。
- ④ 緑の保全のために、周辺住民の参加を促すことを計画する。特に桜のチェーンと桜のリング(広場の周辺)の創出により、学生の木々への愛着をすすめ、地域住民との交流の場とする。
- ⑤ 緑化を推進するために、土地の保水力の増加を図る。その場合、植栽を行うだけでなく、土壌改良や排水計画を行い、緑を育てるためのベースづくりをする。
- ⑥ Edible Landscape (エディブル・ランドスケープ) の仕組みづくりを検討する。

キャンパスに「農」の景を導入することで、学生や教員が整備に関わり、緑地の維持管理を自分たちでできるランドスケープの導入を検討する。採れたものはみんなで食べる仕組みをつくり、また、落ち葉等の堆肥化を活動に盛り込むことで、地球環境に対する意識向上にもつながる。
- ⑦ 緑化にあたり、斜面地の段差のデザイン処理に神戸大学の景観資産といえる御影石の石積みなどを継承し、神戸大学ならではのランドスケープを未来につなぐ。
- ⑧ デザインガイドラインを策定し、キャンパスの建物・広場・緑地・ペイプメントのデザインの方方向性を示し、素材や色彩・緑化のみならず自然エネルギーの活用やユニバーサルデザインなども含めてデザインコードを定め、地域の特性に応じた配慮も加え、キャンパスを整備する際の指針となるものとする。それによって神戸大学独自のランドスケープを創出することが必要。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-2. ポートアイランドキャンパス(1団地~3団地)

(1) キャンパスの概要

ポートアイランドキャンパスは、神戸港内にある人工島の神戸ポートアイランドにあり、神戸新交通ポートライナーの医療センター駅すぐ東側に位置するポートアイランド2団地と、計算科学センター駅のすぐ南側に位置するポートアイランド3団地が主な拠点となっている。キャンパスの周囲には私立大学などの教育施設、理化学研究所などの研究施設及び神戸市立医療センター中央市民病院などの医療施設などがあり、学外の研究機関、他大学、産業界と連携して先端融合研究を行っている。

(2) キャンパスの現状と課題・方針

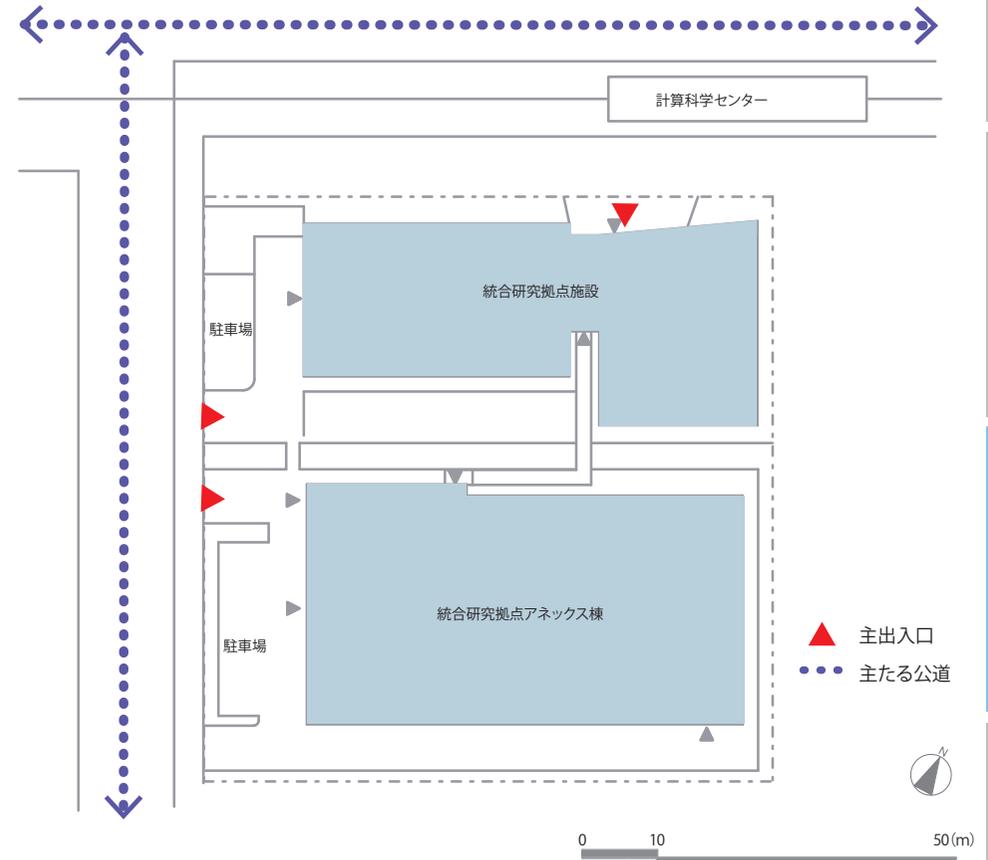
- ・ 部局の枠組みを超えた融合研究の実をあげる全学協力体制を構築し、大学全体としての取り組みを実現するとともに、部局間の連携を強化しつつ、全学の先端融合研究を推進し、先導的研究成果を蓄積するとともに、国内外に対する情報発信を行っている。

ポートアイランドキャンパス



主な関係機関

- ・ 独立行政法人 理化学研究所: 多細胞形成研究センター (CDB)、ライフイノベーション技術基盤研究センター (CLST) 分子イメージング 科学研究センター (CMIS)、計算科学研究機構 (AICS)
- ・ 公益財団法人 先端医療振興財団: 先端医療センター (IBRI)、国際医療開発センター (IMDA) 神戸医療機器開発センター (MEDDEC)、神戸臨床研究情報センター (TRI)
- ・ 公益財団法人 計算科学振興財団: (FOCUS)兵庫県、高度計算科学研究支援センター
- ・ 神戸低侵襲がん医療センター
- ・ 兵庫県立こども病院



キャンパスフレーム図

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(1) キャンパスの概要

楠キャンパスは昭和43年に設置された神戸大学医学部及び医学部附属病院のキャンパスである。

立地については、神戸市内のほぼ中央にあり周辺にはJR東海道本線及び神戸高速鉄道と神戸市営地下鉄が走っている。団地南東部にはJR神戸駅及び高速神戸駅があり徒歩で約15分程また地下鉄大倉山駅より徒歩5分の所要時間である。

団地東側には小高い丘陵形の4ha近い広さを持つ大倉山公園が市道を隔てて隣接し、付近には住宅や商店街の他、神戸市中央体育館、神戸市文化会館、湊翔楠中学校、湊川神社等の公共性の高い施設に恵まれ、埋蔵文化財包蔵地(楠・荒田町遺跡)として指定されている等、文化面・自然環境面共に恵まれた良好な場所にある。

団地西側は、病院の玄関であり国道428号線(幅員25m)に面して市営バスが通っており附属病院を訪れる外来患者のアクセスとなっている。

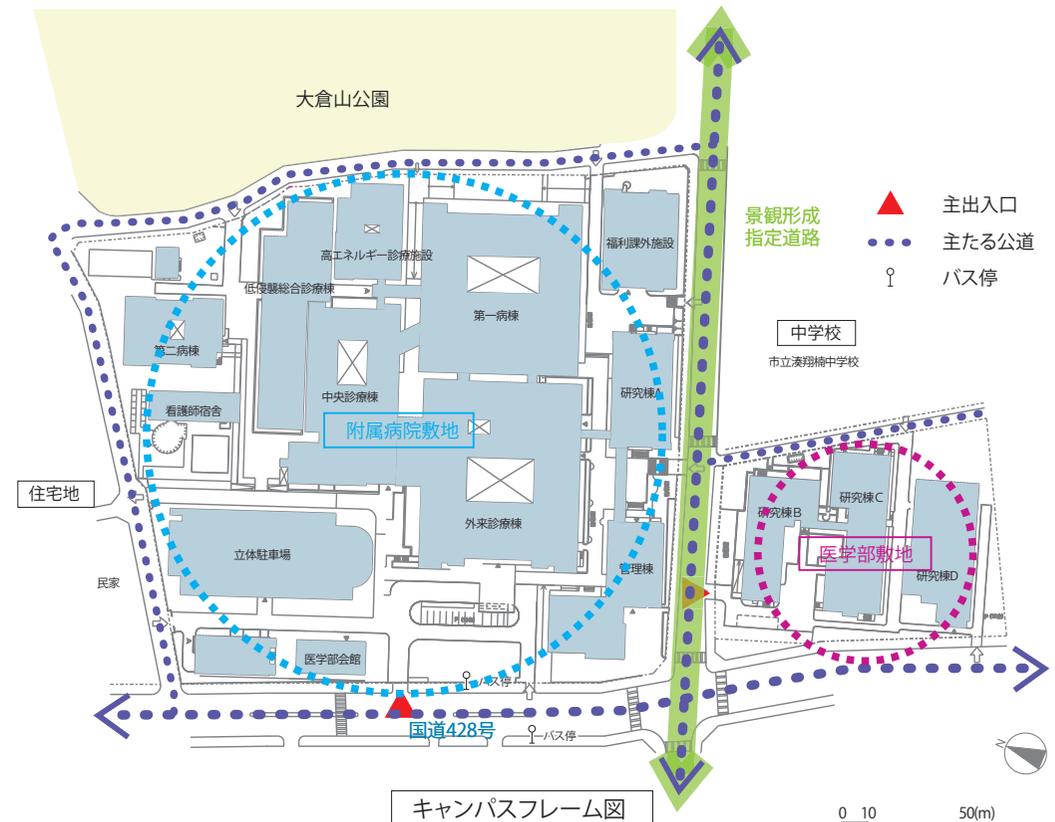
■楠キャンパスの概要データ(R3.5現在)

- ・位置: 兵庫県神戸市中央区楠町7-5
 - ・学部等: 医学部(医学科), 附属病院(本院), 附属図書館医学部分館
 - ・敷地面積: 51,063㎡
 - ・建物延べ面積: 147,709㎡
 - ・建ぺい率: 52.0%
 - ・容積率: 288.0%(附属病院敷地: 299.0%)
 - ・人口: 約2970人
- ・地域地区等(神戸市都市計画): 第2種住居地域(60/200)
 - ・高度地区
 - ・防火地域
 - ・景観地区
 - ・宅地造成工事規制区域
 - ・埋蔵文化財包蔵地



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・都市計画上の建築可能ヴォリュームが限界に達しており、附属病院の発展に支障を来している。今後の地域医療の発展には都市機能・地域社会への貢献と併せて敷地全体に渡る新たなキャンパス整備計画が必要。
- ・キャンパス全域で神戸市による景観形成地区の指定を受けている。この地区の主旨を踏まえ、周囲の自然環境や文化施設を活かしたキャンパス景観の向上を図る。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能を改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要



4. 8つのキャンパスの部門別計画

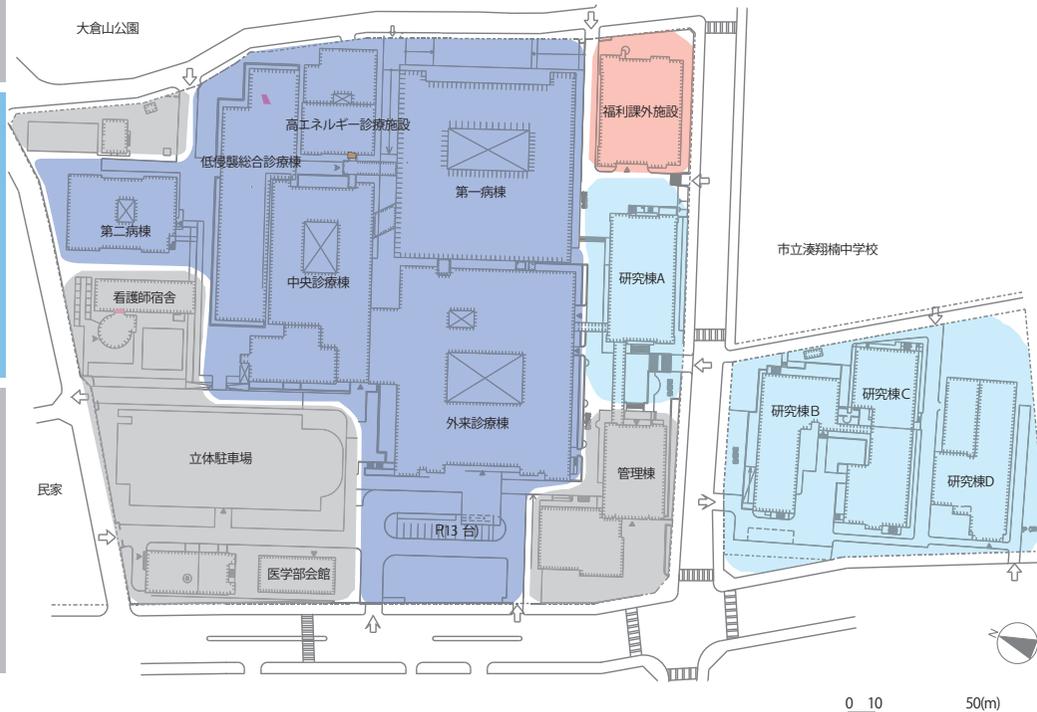
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(3) ゾーニング計画

楠キャンパスゾーンは、近年再検討再構築が重ねられ、まとまったゾーン構成と各ゾーンの有機的な連携が構築されようとしている。この計画をおすすめ、各ゾーンの相互の関係を有機的なものにし、地域との連携を深めていくため、必要な機能を付加していくことが求められる。

- 病院施設ゾーン
- アカデミックゾーン
- アメニティーゾーン
- 管理ゾーン

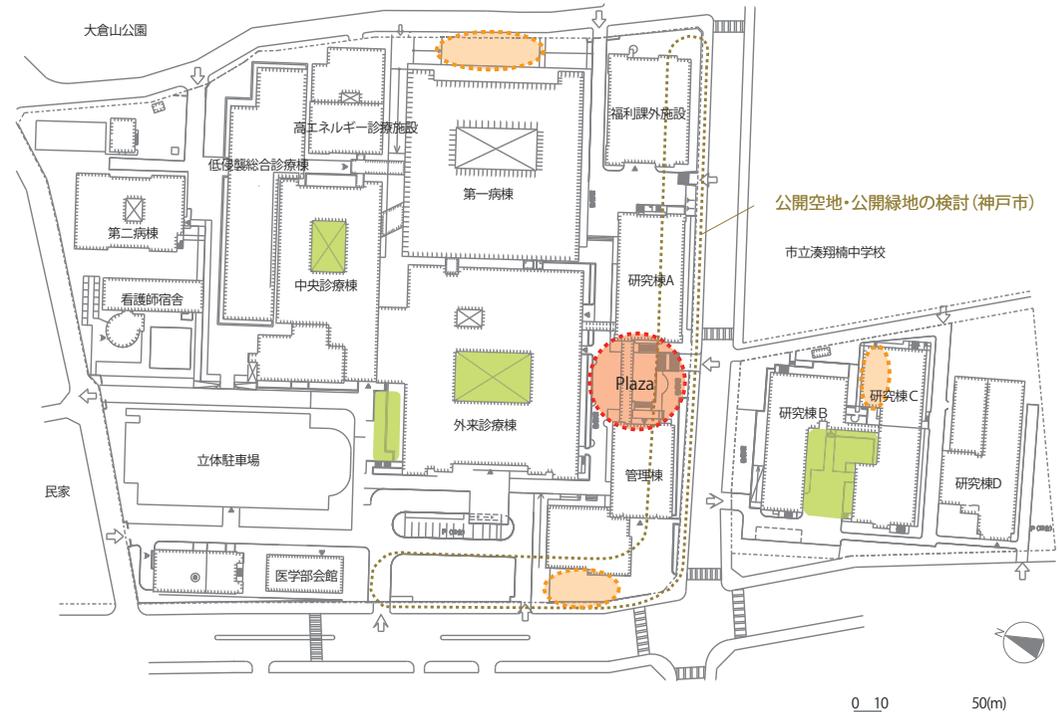


0 10 50(m)

(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。また、敷地の高度利用に伴い必要となる公開空地・公開緑地について検討を行う。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑地等を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。学生、施設利用者の溜まりの場所となるよう賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、学生達や施設利用者のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



0 10 50(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

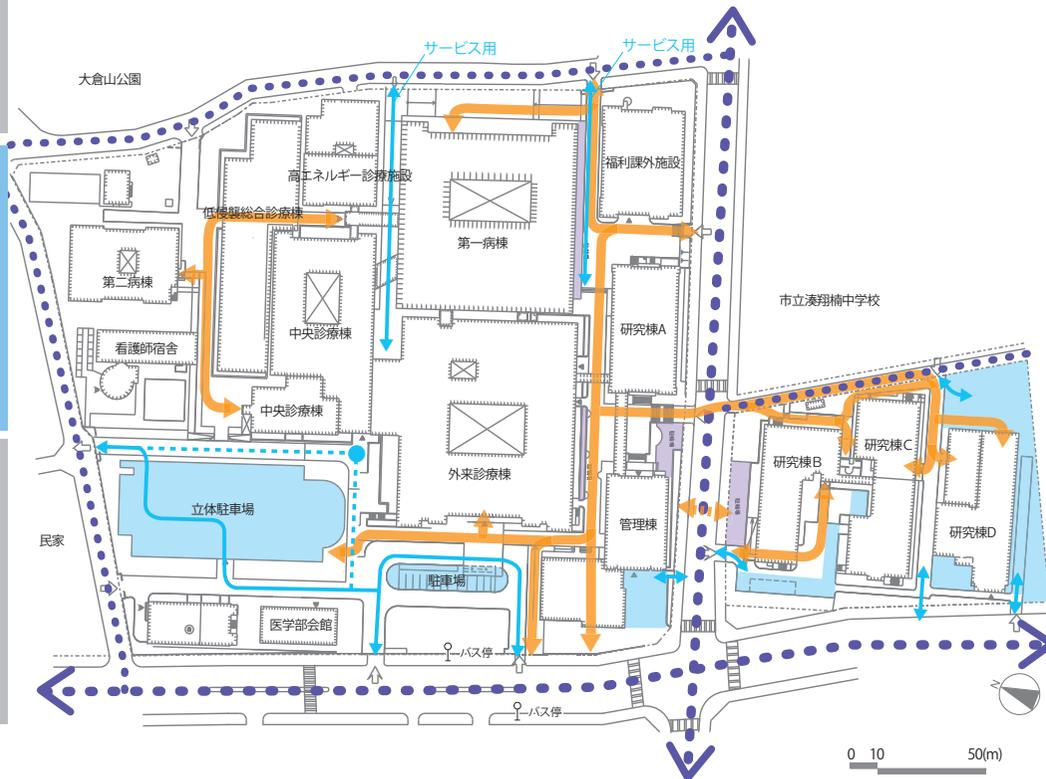
4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(5) キャンパス動線計画

車輛交通動線は駐車場の位置も含めほぼ整備されている。しかしバス停からの人の動線はロープも含め、ユニバーサルデザインの配慮が望ましい。

- ・病院敷地と医学部敷地をつなぐ共用歩廊の検討
- ・診療棟、及び病棟内部の明解な動線整備の検討

- 自動車主要動線
- 救急車輛動線
- 歩行者(現状)
- 歩行者(計画)
- 主たる公道
- 駐車場
- 駐輪場

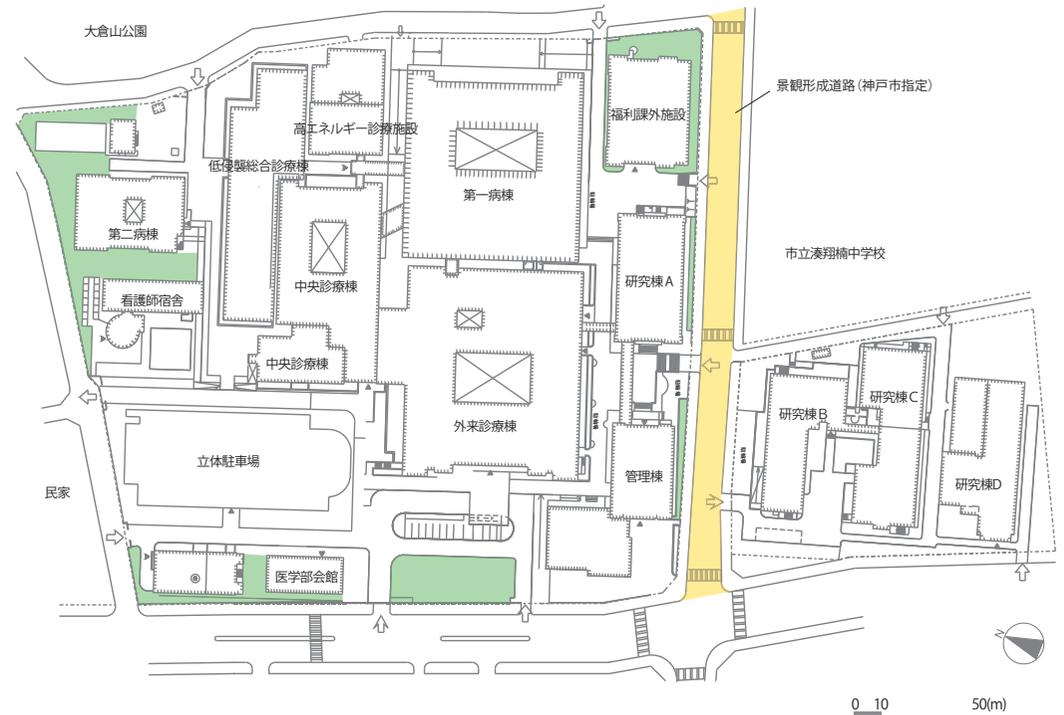


(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

楠キャンパスは、神戸市が指定する「神戸駅・大倉山都市景観形成地域-大倉山ゾーン」に位置している。この指定地域の主旨(*)に沿った整備を推進することで、地域と一体となった良好な景観形成を目指す。

(*)建築物等の意匠は質の高い落ちついたものとし、周辺の緑と一体となつてうおいと親しみのあふれるものに誘導する。

- 緑地(保存緑地)
- ビューコリダー(眺望路)



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-3. 楠キャンパス(国際がん医療・研究センター含む)

(7) キャンパスの概要(国際がん医療・研究センター)

平成16年に設置したインキュベーション施設(BTセンター)があるポートアイランド2キャンパスに国際がん医療・研究センターを平成29年に設置する。

キャンパスは、神戸港内にある人工島の神戸ポートアイランド中央地区にあり、神戸新交通ポートライナーの医療センター駅のすぐ東側に位置する。キャンパスの周囲には神戸市立医療センター中央市民病院や兵庫県立こども病院などの医療施設などがあり、『神戸医療産業都市』として、高度な医療の提供を目指す病院等が集積している。

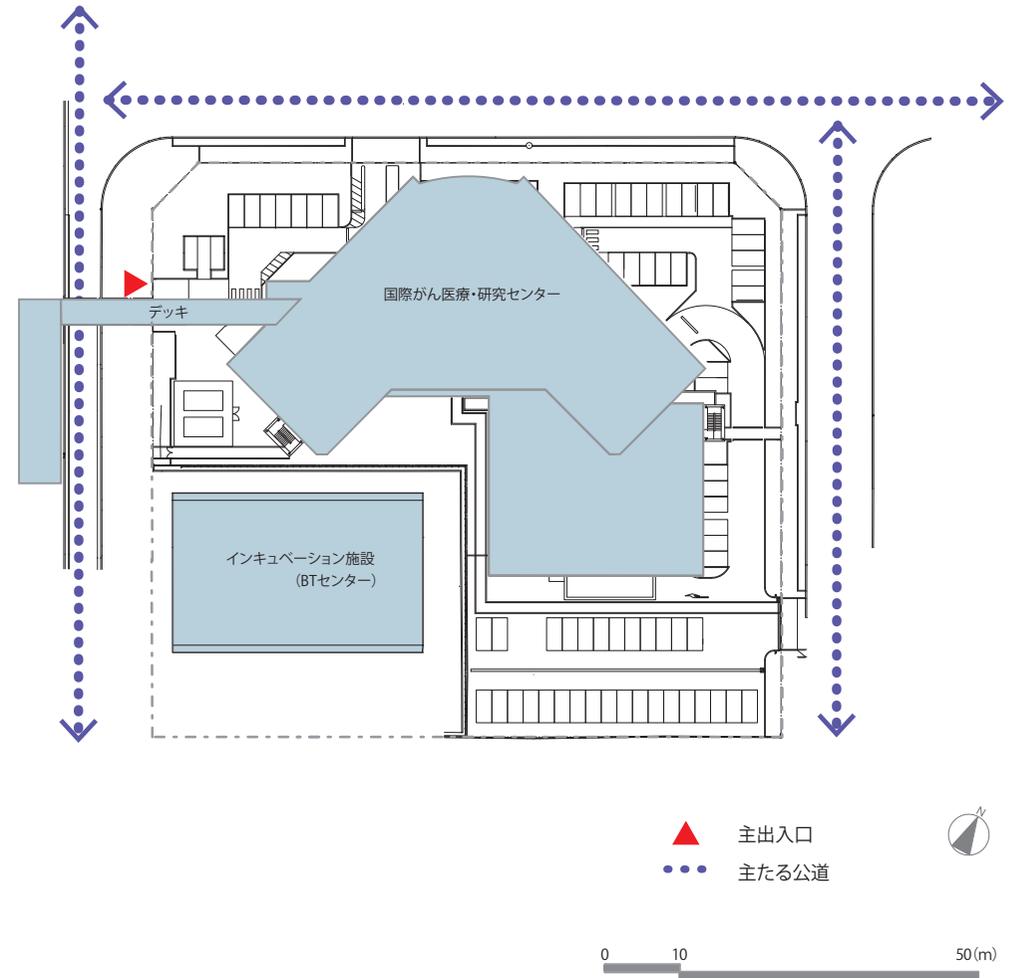
■ポートアイランド2キャンパスの概要データ(現在)

- ・位置: 兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-1,6
 - ・学部等: 医学部附属国際がん医療・研究センター
インキュベーション施設(BTセンター)
 - ・敷地面積: 8,395㎡
 - ・建物延べ面積: 16,317㎡
 - ・建ぺい率: 42.0% 容積率: 194.0%
 - ・人口: 約70人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
商業地域
地区計画(ポートアイランド南地区)



(8) キャンパスの現状と課題・方針(国際がん医療・研究センター)

- ・周辺の様々な医療機関が、ひとつの場所に集積・連携することにより、市民への高度な医療サービスの提供、事業者等の新たな事業機会の創出、さらには国際貢献を行うことを目指す。



キャンパスフレーム図

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-4. 名谷キャンパス

(1) キャンパスの概要

名谷キャンパスは昭和51年に設置され、現在神戸大学医学部保健学科として利用されているキャンパスである。

立地については、緑豊かで閑静な北須磨団地の一角に位置し、周囲には中学校や専門学校等の文教施設と良好な住宅団地に囲まれている。また、かつて医療技術短期大学部であった時代から地域住民と積極的に交流してきた経緯があり、地域社会の中の大学キャンパスとしての役割を担っている。

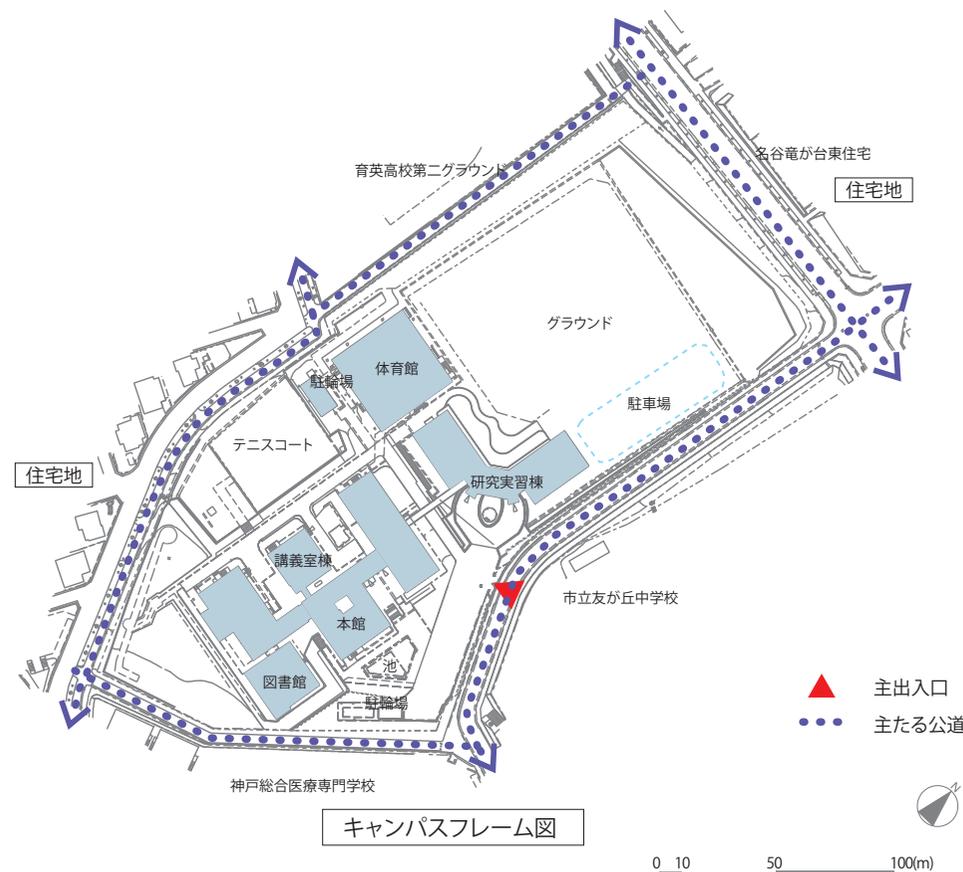
■名谷キャンパスの概要データ(R3.5現在)

- ・位置:兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2
- ・学部等:医学部(保健学科)
- ・敷地面積:33,330㎡
- ・建物延べ面積:17,567㎡
- ・建ぺい率:16.0% 容積率:53.0%
- ・人口:約800人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種中高層住居専用地域(60/150)
高度地区
準防火地域
景観地区
宅地造成工事規制区域



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・地域社会に開かれた大学として、都市のシンボリック的存在として位置づけられるようなキャンパスを目指す。
- ・市街地の中のアメニティー空間として、キャンパス内に緑地とオープンスペースを充実させる。
- ・キャンパス利用者全てに優しい、ユニバーサルデザインに基づいた構内通路や設備・サイン整備を推進する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-4. 名谷キャンパス

(3) ゾーニング計画

名谷キャンパスは、既に機能上まとまったゾーン構成になっている。将来的にこれらのゾーン配置を基本としつつ、各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため必要な機能を付加していく計画とする。

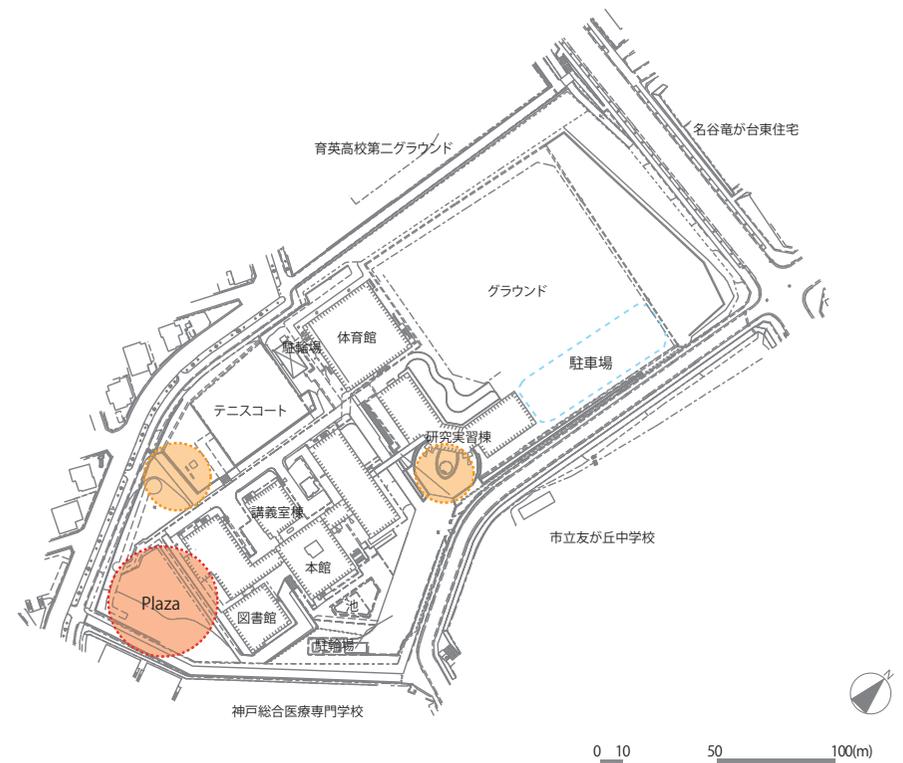
- アカデミックゾーン
- アメニティーゾーン
- メディアリソースゾーン
- 運動施設ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 管理ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。地域住民と積極的に交流してきた経緯から、食堂周辺を中心に、オープンカフェを整備する等、南側緑地を中心とする地域連携エリアの整備と市民開放を検討し、学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑地等を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。Footpassの結節点で学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

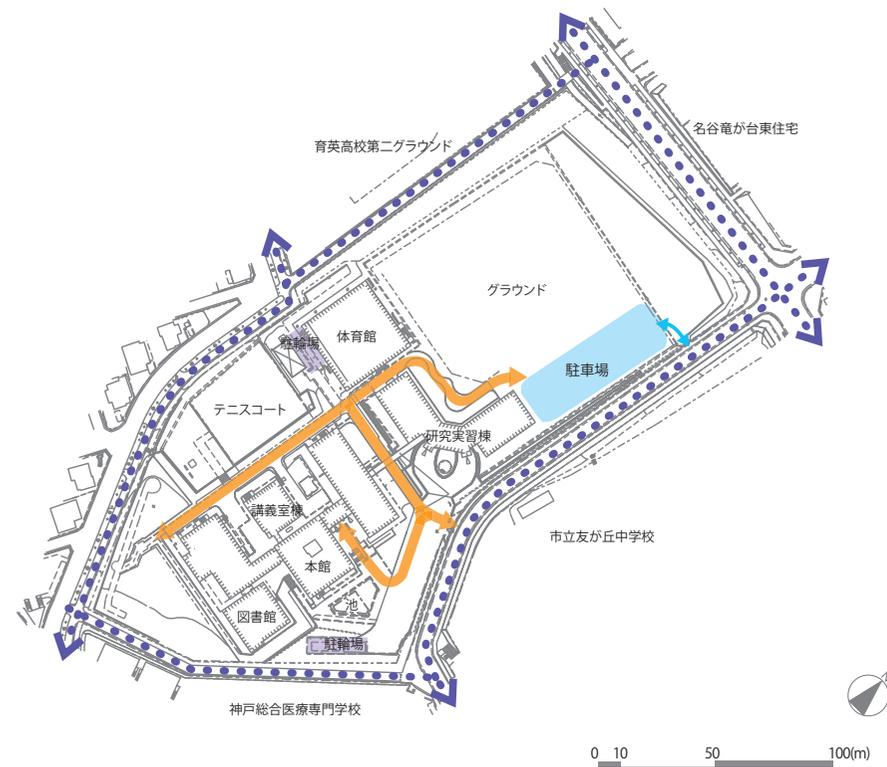
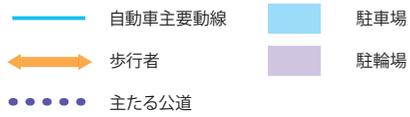
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-4. 名谷キャンパス

(5) キャンパス動線計画

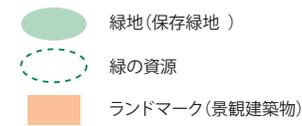
名谷キャンパスの歩車交通環境の現状は、動線が混乱しているため、歩車分離を行うための施設整備を行う。

- ・学生の駐輪場も足りないため、駐輪場の集約・整備



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

地域社会の中のキャンパスとして、キャンパス内外に魅力的な景観を形成すべく、緑化を主としたエコロジカルなランドスケープを実現していくことを目指す。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(1) キャンパスの概要

深江キャンパスは神戸大学の海事科学部を擁するキャンパスである。海事科学部は、神戸商船大学が2003年(平成15年)に神戸大学と統合して発足した学部であり、当時のキャンパスをそのまま受け継ぎ今に至る。

立地については国道43号線に面した神戸市街地の臨海部に位置しており、海洋に関する教育研究の他、船舶を使った実習等、海事科学部独特のカリキュラムの実践の場として機能している。

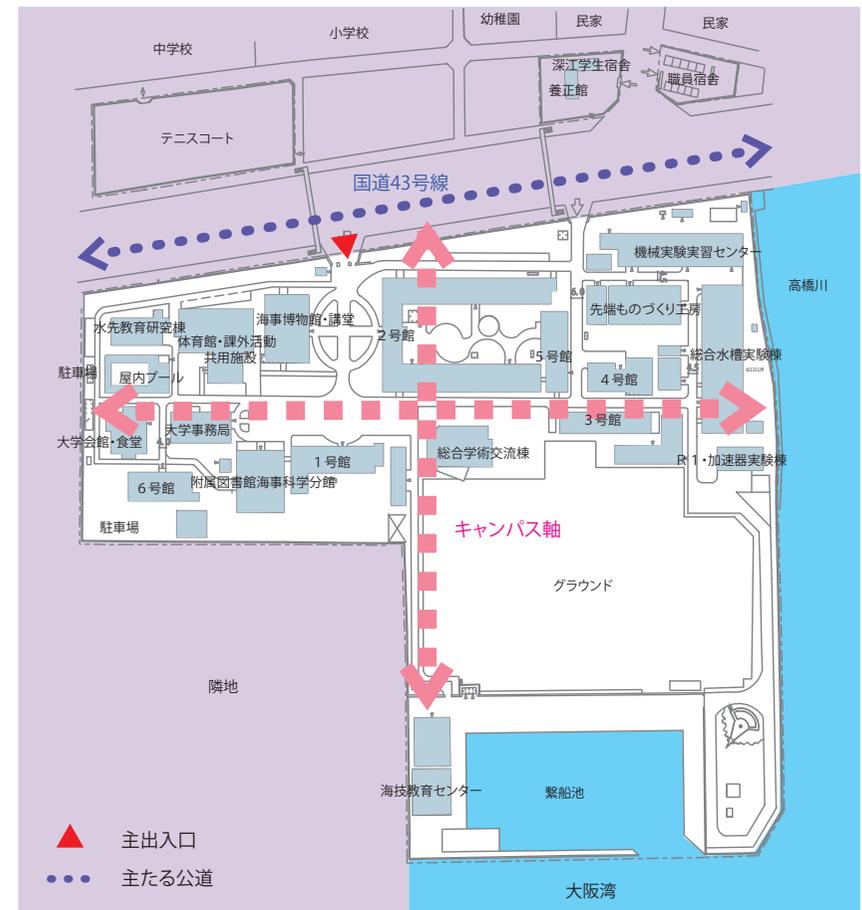
■深江キャンパスの概要データ(R3.5現在)

- ・位置:兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1
 - ・学部等:海事科学部
 - ・敷地面積:94,547㎡
 - ・建物延べ面積:41,535㎡
 - ・建ぺい率:20.0% 容積率:44.0%
 - ・人口:約960人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種住居地域(60/200)
高度地区
準防火地域
水道、下水道等供給施設又は処理施設
港湾地区



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・アクセスのよい立地を活かし、地域公開・地域利用を推進するべく、公開に資する施設・設備及びオープンスペースの整備をすすめる。
- ・交通量の多い国道43号線による騒音・排気ガスに対する対策を検討する。
- ・海に面した海拔3メートルの敷地は津波による被害の恐れがあるため、対策を検討する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



キャンパスフレーム図

0 10 50 100(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

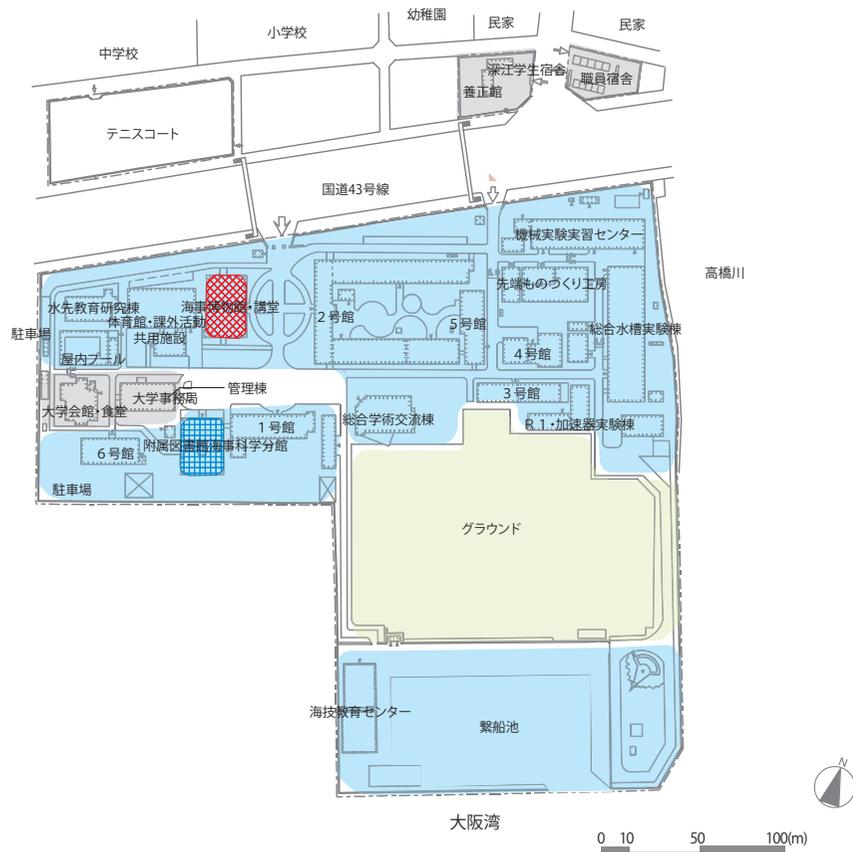
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(3) ゾーニング計画

深江キャンパスは教育の機能上まとまったゾーン構成となっている。そのゾーン相互の関係、地域との関連をますます深めていくために必要な機能を追加していくことが求められる。

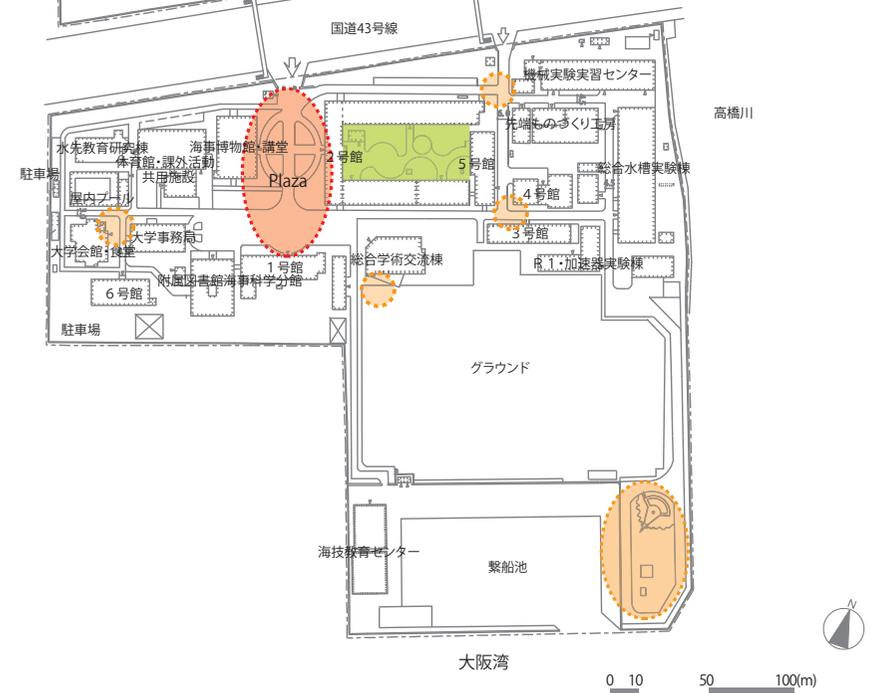
- アカデミックゾーン
- メディアリソースゾーン
- 運動施設ゾーン
- 管理ゾーン
- 地域連携ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、学生・研究者同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。美しいウォーターフロントを内部に抱きこんだ敷地でもあり、繋船池周辺も積極的に市民など楽しめる空間として整備するとともに、海事科学研究科の顔として、プロペラ、錨など海に関わる教育の場を象徴するものの展示など、特色ある環境整備を図る。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。学生やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、現存する木々を生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の学生の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、研究や講義の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



4.8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-5. 深江キャンパス

(5) キャンパス動線計画

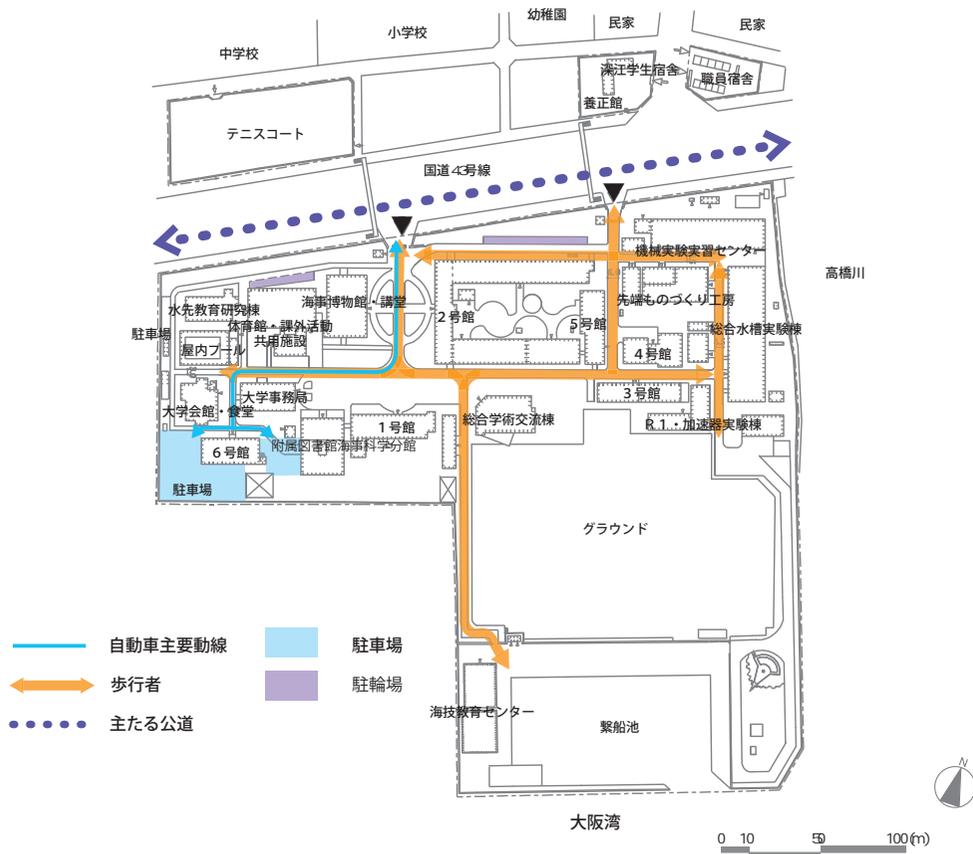
現在、歩行者動線と自動車道線との重複が多いため、駐車場の集約整備、歩行者通路の整備を行い、安全・快適な構内交通を実現する。

- ・駐車場を南西角にまとめることによって、歩車分離を実現させる。
- ・敷地東側のソテツの並木道を継承・整備する。
- ・繋船池へ向かう南北に移動する通路を整備する。

策定方針・コンセプト

8つのキャンパスの感受計画

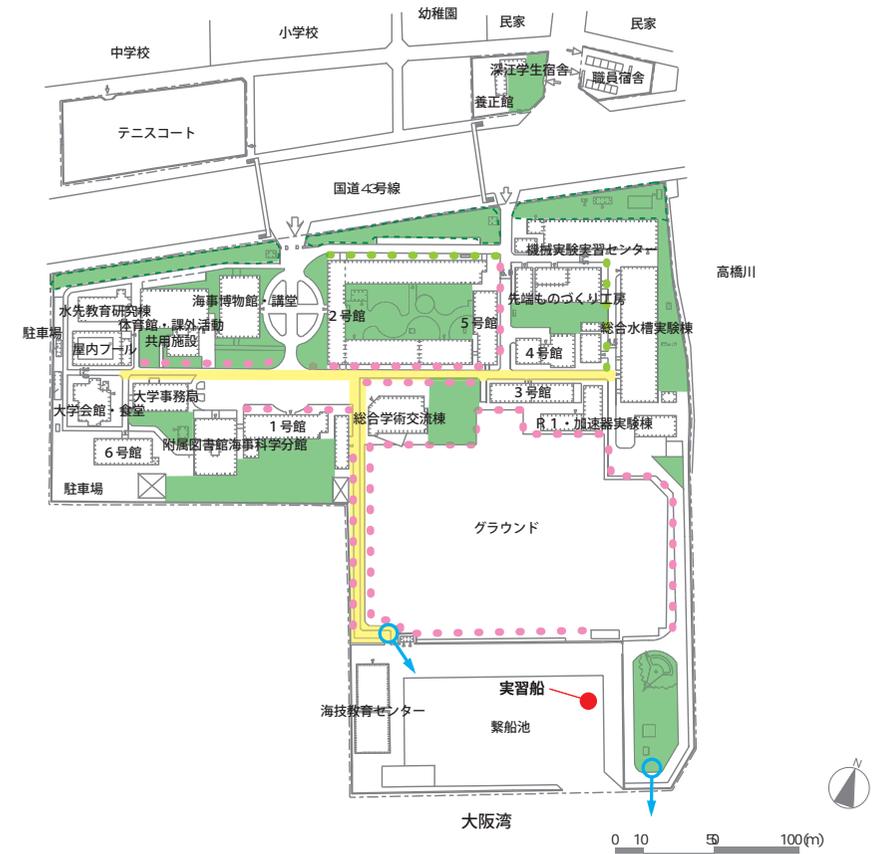
資料



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

南東角に繋船池を持ち、北側には大木が点在する緑地を持っているキャンパスである。古い歴史を持って現在にいたっている。その歴史的景観を受けついで保存・継承させていくことが望まれる。

- 緑地(保存緑地)
- 緑の資源
- サクラのリング・チェーン
- 並木
- ビューコリダー(眺望路)
- ➡ ビューポイント
- ランドマーク(景観エレメント)



策定方針・コンセプト

8つのキャンパスの感受計画

8つのキャンパスの部門別計画

資料

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(1) キャンパスの概要

住吉キャンパス(住吉1団地)は附属中等教育学校が設置されているキャンパスである。本キャンパスは、海拔164m余の六甲山の麓、赤塚山の南端で緑の多い高台に位置し、周辺には本学の学生宿舎があり、眺望は極めて良く自然とふれあいながら学習できる閑静な落ち着いた住宅街にある学校である。本団地付近は六甲山の南縁に辿り、多くの断層の活動による急崖が背後に迫っている地域で、裾部から南方に向けてなだらかに傾斜する丘陵地形をなしている。

付近の地質は神戸層群と呼ばれる六甲山地の大部分を構成する花崗岩(軟岩)で、団地内は布引花崗閃緑岩が基盤岩類を覆って大阪群層、段丘堆積層及び崩壊土層が分布し、さらに人為的な造成盛り土が施されている。

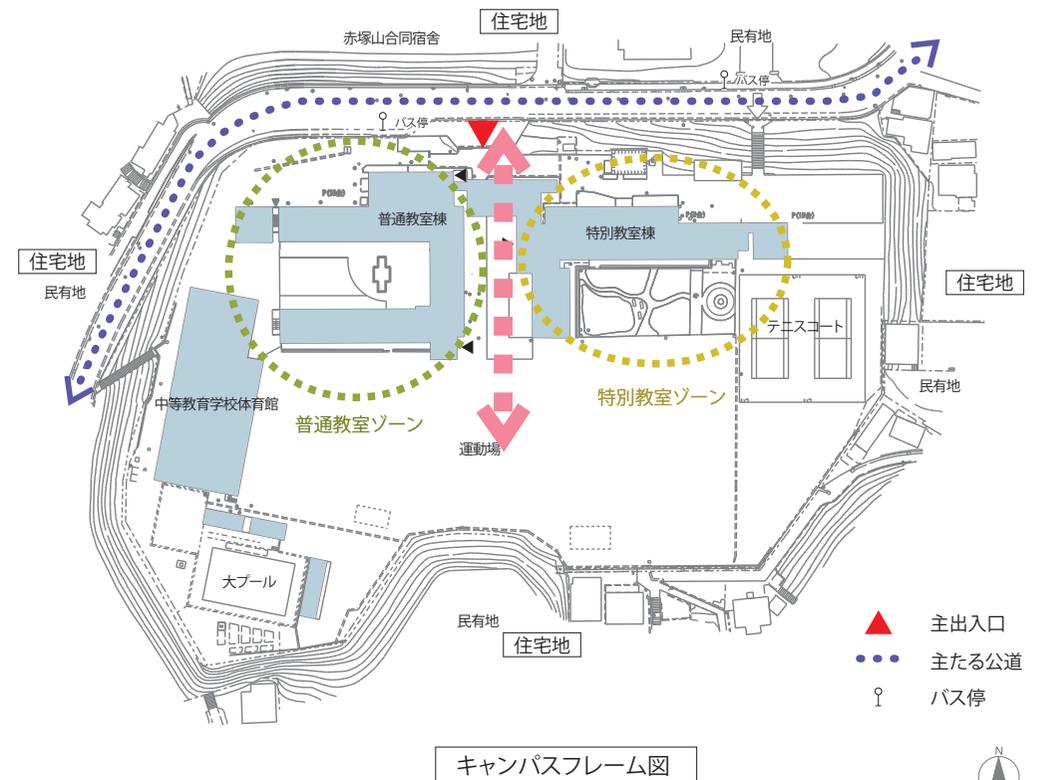
■住吉キャンパス(住吉1団地)の概要データ(R3.5現在)

- ・位置:兵庫県神戸市東灘区住吉山手5-1-1
- ・学部等:附属中等教育学校(住吉校舎)
附属住吉小学校
- ・敷地面積:29,185㎡
- ・建物延べ面積:11,806㎡
- ・建ぺい率:17.0% 容積率:40.0%
- ・人口:約790人
- ・地域地区等(神戸市都市計画他):
第1種中高層住居専用地域(60/200)
特別用途地区(文教施設)
高度地区
風致地区
宅地造成工事規制区域



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・中等教育学校のキャンパスとして、異なる年齢の生徒が共に心身を育むことのできるキャンパスを目指す。
- ・地域の中のキャンパスとして、生徒の安全を確保しつつ、地域交流を図る。
- ・近隣住民との良好な関係を維持するため、敷地周囲の法面等を適切に維持保全する。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



0 10 50 100(m)

4. 8つのキャンパスの部門別計画

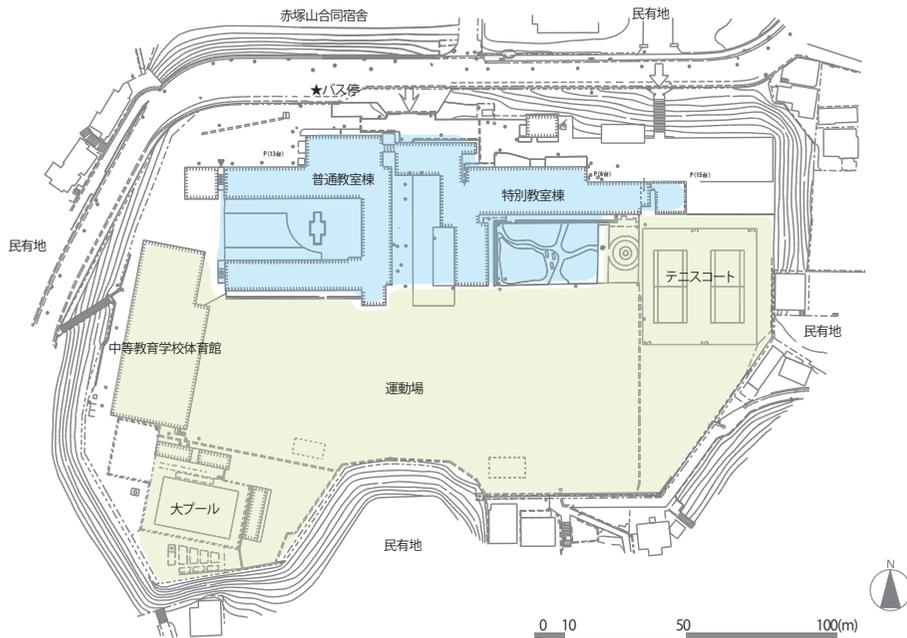
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(3) ゾーニング計画

住吉キャンパスは機能的にまとまったゾーニング計画がすでに進行している。その上で各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため必要な機能を付加していくことが求められる。

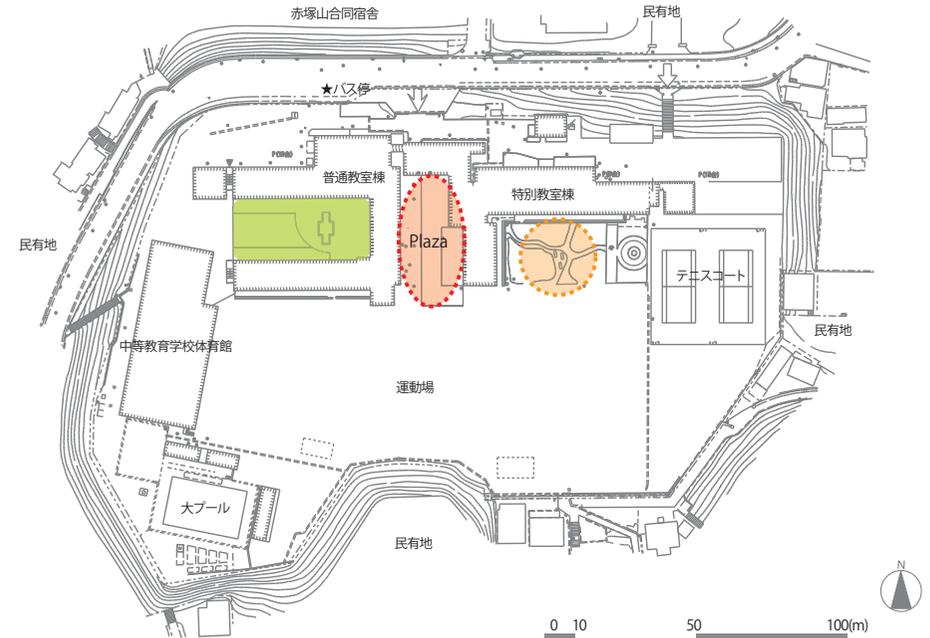
- アカデミックゾーン
- 運動施設ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。オープンスペースの性格づけを行い、北、西の斜面地の緑化、保全を行うと同時に、南側の傾斜地の整備計画を行うことによってより豊かな緑地の保全が期待される。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や緑地を生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。授業の合間等の生徒児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の生徒・児童達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



8つのキャンパスの部門別計画
 8つのキャンパスの総案計画
 資料
 資料
 8つのキャンパスの部門別計画
 8つのキャンパスの総案計画

4. 8つのキャンパスの部門別計画

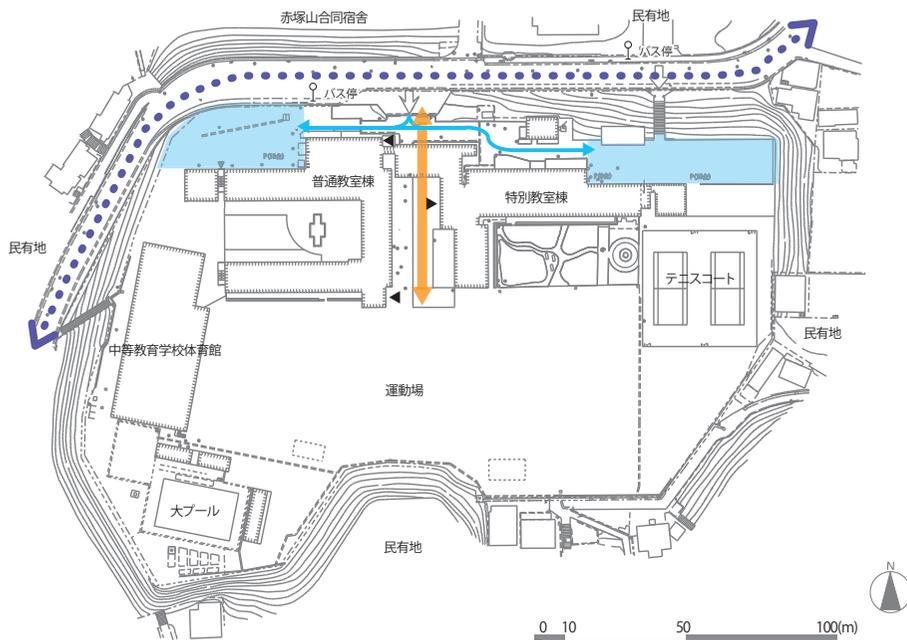
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-6. 住吉キャンパス

(5) キャンパス動線計画

登下校する生徒・児童に配慮し、歩車分離を基本とする安全対策を図る。なお、歩行車動線と自動車動線の重なる構内出入口付近については、交通整理員による人的対応に加え、各動線を安全に区画すべく歩車道の整備を図る。

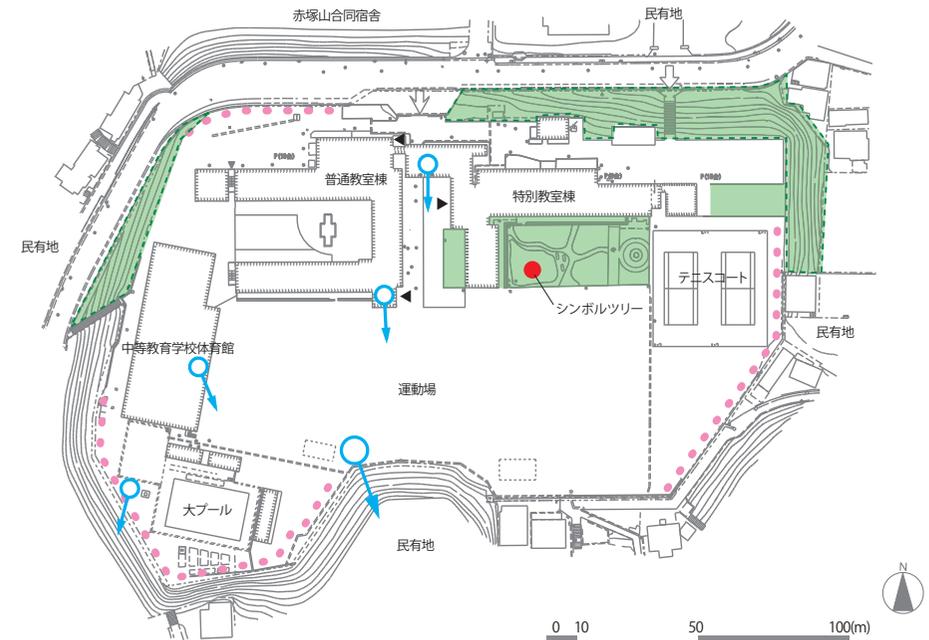
-  自動車主要動線
-  歩行者
-  主たる公道
-  駐車場



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

六甲山系を背にし、海を望む美しい景観・環境の中にあるキャンパスである。斜面地の保全と緑化とともにキャンパスの景観を守り、育てていく。

-  緑地(保存緑地)
-  緑の資源
-  サクラのリング・チェーン
-  ランドマーク
-  ビューポイント



8つのキャンパスの部門別計画
 8つのキャンパスの緑地計画
 資料

8つのキャンパスの部門別計画
 8つのキャンパスの緑地計画
 資料

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-7. 明石キャンパス

(1) キャンパスの概要

明石キャンパス(明石団地)は神戸大学附属明石校における小学校・幼稚園を擁するキャンパスである。

明治37年開校の本キャンパスは、JR明石駅から東に徒歩約5分、明石公園東の閑静な住宅地の中に位置する。東に明石天文科学館、明石海峡大橋を臨み、南に明石漁港、フェリー乗り場、魚の棚商店街、明石市役所と街の中心が広がる。西は、明石城跡公園、明石川と自然に恵まれ、北は、明石図書館、文化博物館をはじめ、人丸神社や月照寺などの神社仏閣に取り囲まれている。

本団地は、背後にそびえる山々が低い丘陵をなし、それが海岸まで及んでいる地域を造成したものである。

付近に分布する地層としては下層部を硬い洪積層、固結している粘性土層で、上層部は柔らかい沖積粘土層(砂を少量含む)で構成されている。

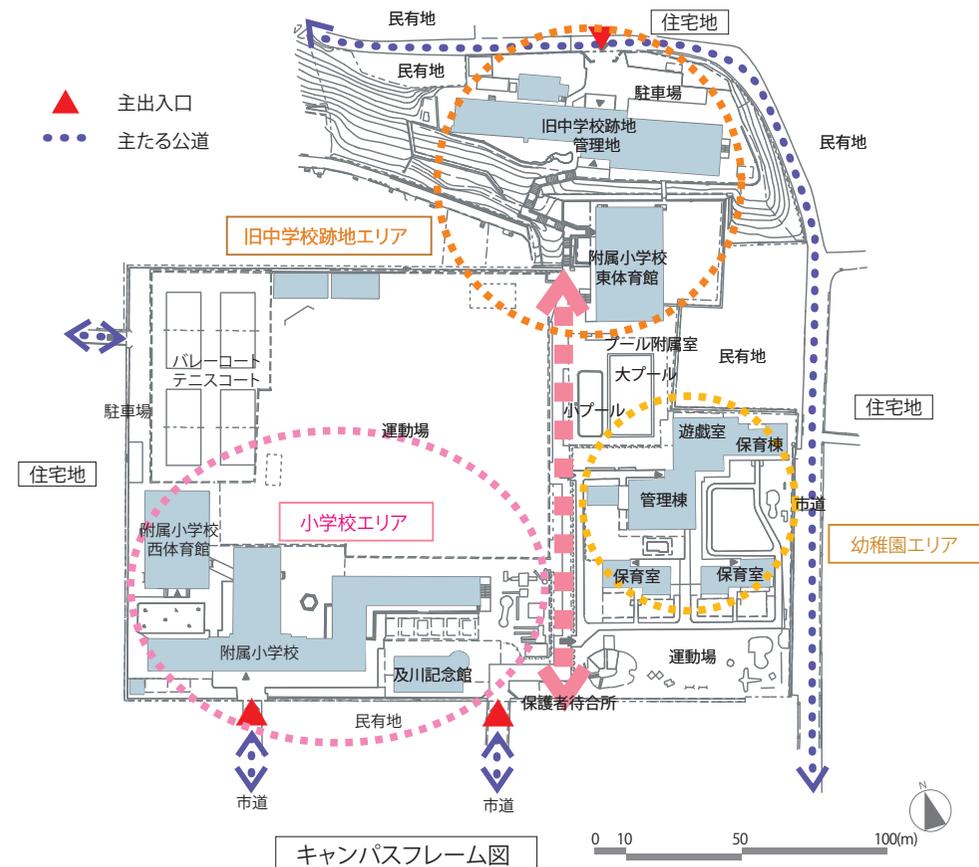
■明石キャンパス(明石団地)の概要データ(R3.5現在)

- ・位置: 兵庫県明石市山下町3-4
 - ・学部等: 附属小学校
附属幼稚園
 - ・敷地面積: 33,773㎡
 - ・建物延べ面積: 9,879㎡
 - ・建ぺい率: 18.0% 容積率: 29.0%
 - ・人口: 約570人
- ・地域地区等(明石市都市計画他):
第2種中高層住居専用地域(60/200)
高度地区



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらった教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・広く学校教育、家庭教育、社会教育の振興に寄与すべく、人間発達環境学研究科及び発達科学部の実践研究及び学生の教育実習の場として、適切な環境を提供する。
- ・旧附属明石中学校敷地は土地売却も含めた施設の有効利用を検討する。
- ・築30年以上経過し老朽化している施設について、施設機能の改善するための計画が必要。
- ・課外活動施設の在り方について、検討が必要。



キャンパスフレーム図

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

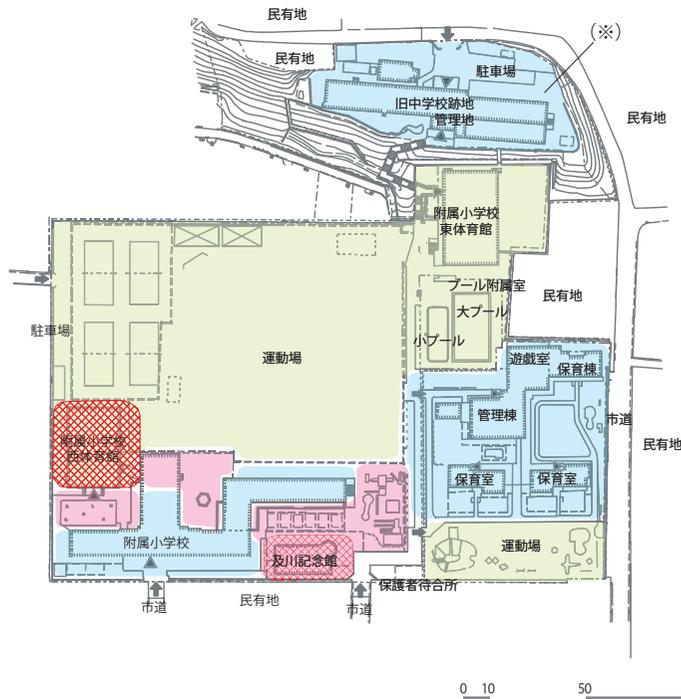
4-2-7. 明石キャンパス

(3) ゾーニング計画

明石キャンパスは昭和12年に建設された本館(歴史的な価値のある小学校)を中心に増改築を行ってきた。ゾーニングは機能的に不具合が見受けられる。将来計画として、各ゾーンの相互の関係や地域に向けての開放性を押しすすめるため、必要な機能を付加しつつ計画をすすめるようにする。

(※)旧中学校跡地は資産上の活用方法について検討を進める。

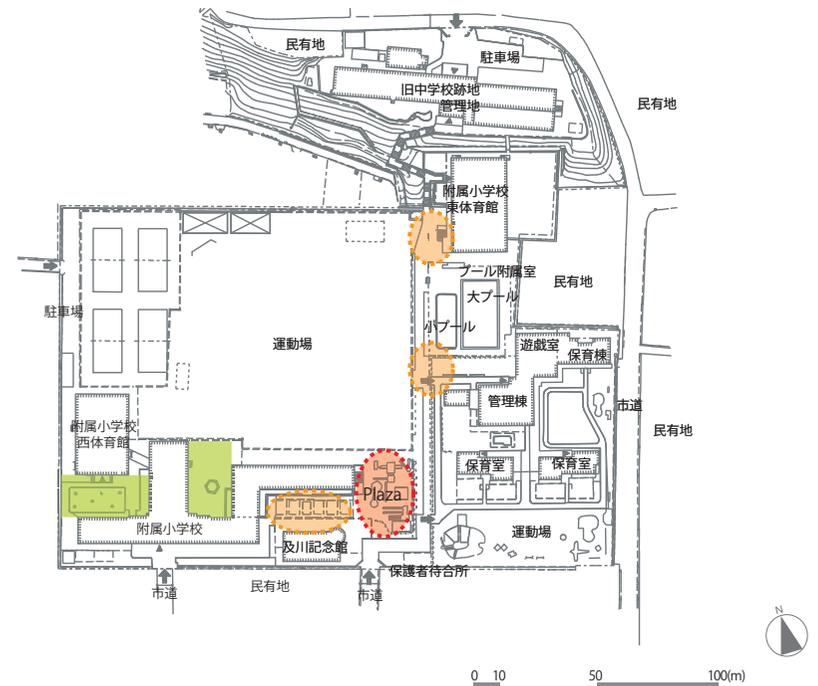
- アカデミックゾーン
- 交流ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 運動施設ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。それぞれの空間の特徴や内部空間との関係を考えると同時に、利用者(小学生・幼稚園児・父兄・市民等)の動線や利用内容を計画に反映する。特にエコロジカルな環境を創出する。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する歴史的な痕跡を残す配慮を行う。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の生徒・児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の生徒・児童達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチュアなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。



8つのキャンパスの部門別計画
 8つのキャンパスの将来計画
 資料
 8つのキャンパスの将来計画
 8つのキャンパスの部門別計画
 資料

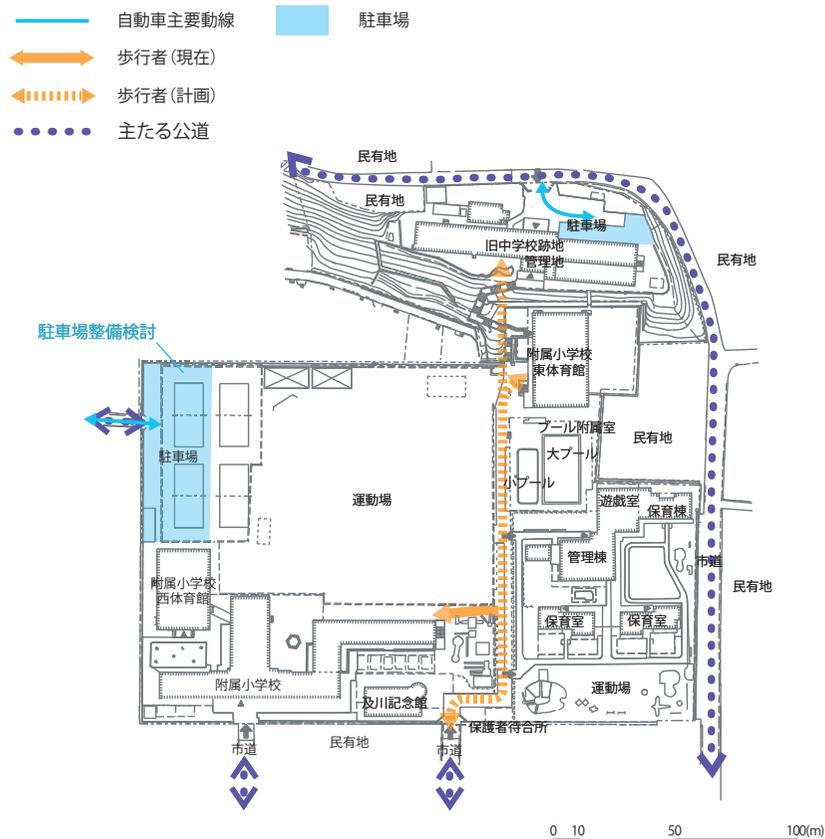
4.8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-7. 明石キャンパス

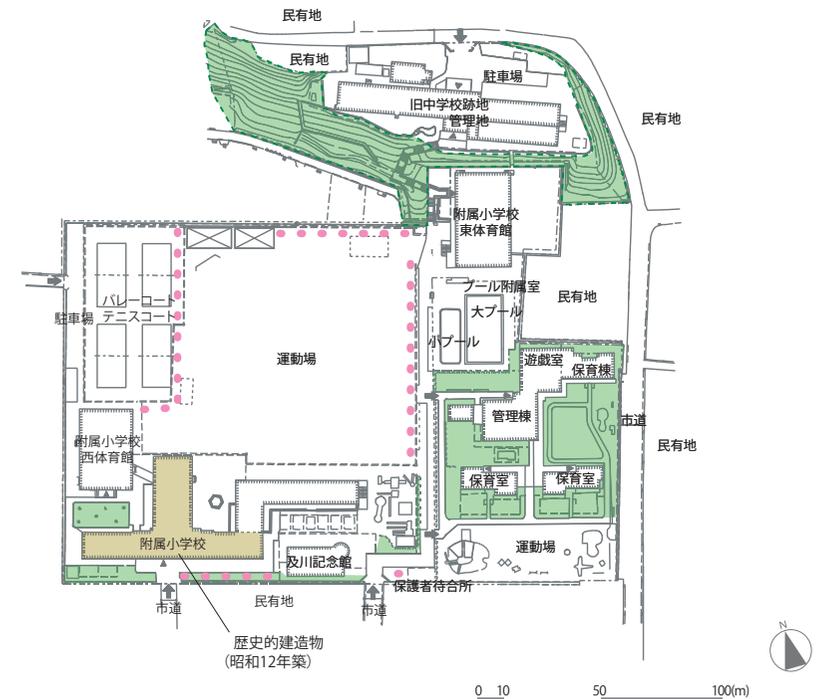
(5) キャンパス動線計画

- 登下校する生徒・児童に配慮し、歩車分離を基本とする安全対策を図る。
- 緊急車両や工事車両等をのぞく一般車両や営業車両の自動車動線を集約する。
- 利用停止後のバレーコート・テニスコート跡地を駐車場として整備、集約することで機能的な車両動線を確保する。
- 敷地中央の南北方向の通路をキャンパスの主軸となる歩道として、災害時動線としての機能も備えた形へと整備する。



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

敷地周囲の緑地の保全・整備を行う。特に北側の中等教育学校にいたる斜面の緑地はこの地域の重要な景観要素となっており保全が望まれる。敷地周辺及び主な歩行道には、すでに植えられている桜並木を保全しつつ、積極的に桜等の植樹を行い、小学校、幼稚園の母校としての記憶、愛着を生むような魅力的な並木道を計画する。歴史的価値をもつ昭和12年築の校舎を、整備、保存し地域への公開・活用を進める。



8つのキャンパスの部門別計画

8つのキャンパスの部門別計画

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

(1) キャンパスの概要

大久保キャンパス(大久保団地)は神戸大学附属特別支援学校が設置されたキャンパスである。

本キャンパスが立地する明石市大久保町大窪はJR大久保駅より北側5kmのところであり周辺は住宅地として開発が進み住宅都市整備公団の団地、石が谷公園等があり自然環境に恵まれた場所である。

近隣には、明石の肢体不自由養護学校、肢体不自由児通園施設、知的障害者授産・更生施設、身体障害者療養施設があり、本校を加えて明石市における障害者福祉ゾーンを形成している。

本団地付近は明石市北部の丘陵地帯で、標高100m程度までの広い丘陵地形を呈する。地層的には明美丘陵南部地域に属し、段丘堆積層及び明石累層が交錯する地域で、本学敷地は、標高70mを完成地盤高として人為的な造成切り盛り土が施されている。

■大久保キャンパス(大久保団地)の概要データ(R3.5現在)

- ・位置:兵庫県明石市大久保町大窪 2 7 5 2 - 4
- ・学部等:附属特別支援学校
- ・敷地面積:16,652㎡
- ・建物延べ面積:3,646㎡
- ・建ぺい率:16.0% 容積率:22.0%
- ・人口:約90人
- ・地域地区等(明石市都市計画他):市街化調整区域



(2) キャンパスの現状と課題・方針

- ・附属学校園の基本理念(社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与する)にふさわしい場所として整備・維持保全に努める。
- ・特別支援学校特有の生徒、児童が持つ障害の重症化、重複化、多様化に対応した施設・設備の改善を図る。
- ・来校者全てに優しい、ユニバーサルデザインに基づいた構内通路や設備・サイン整備及び構内交通等の安全対策を推進する。
- ・課外活動施設の在り方について、再確認が必要。



4. 8つのキャンパスの部門別計画

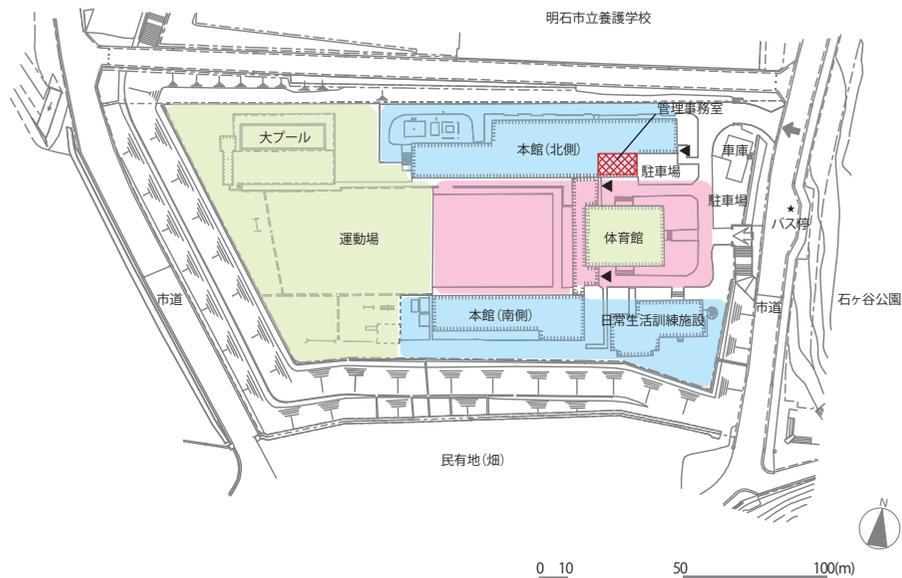
4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

(3) ゾーニング計画

大久保キャンパスは既に機能上まとまったゾーン構成となっている。各ゾーン相互のつながりを強化すると同時に、大久保キャンパスのもっている社会的な意義を考え、地域との関係を密接にするため、必要な機能を付加することが求められる。

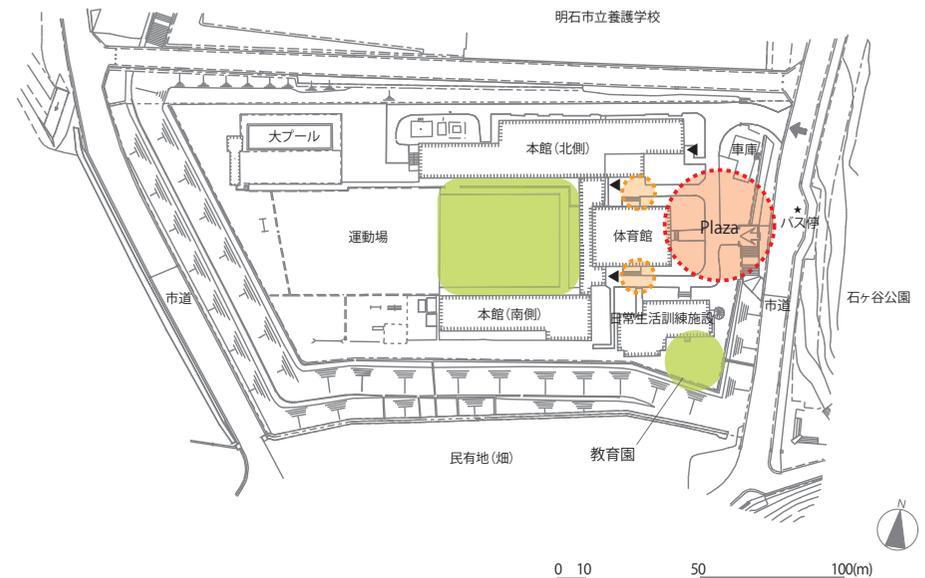
- アカデミックゾーン
- 交流ゾーン
- 運動施設ゾーン
- 管理ゾーン



(4) パブリックスペース計画

休憩・リフレッシュに供する場、生徒・児童・先生同士の活発なコミュニケーションを促す場、及び、避難場所等の防災に資する空地として、公共のオープンスペースを適所に配置計画し、整備を検討する。コミュニケーションの活性化を図るべく、既存の外部空間上で、機能別にオープンスペースを位置付けた上で、舗装、緑化、ファニチャー等を整備し、オープンスペースとしての空間の質の向上を図る。

- Plaza シンボル空間として、広場(Plaza)を設ける。生徒・児童やキャンパスを訪れた人々にやすらぎと潤いを与える計画とする。整備に当たっては、木々や現存する緑のアンジュレーションを生かした計画とする。
- Park 歩行者路の結節点や入口付近に広場(Park)を設ける。登校・下校の生徒児童の溜まりの場所となる。緑と賑わいのある交流空間として計画を行う。
- Court 建物の配置により囲まれた結果、生じたこの四角い中庭(Court)は、授業の合間の学生達のリフレッシュ空間として機能する。ベンチ等のファニチャーなども一体的に計画し、機能的に配置を行う。
- 教育園 地域交流空間として位置づけ、既存教育園を継承・整備を行う。



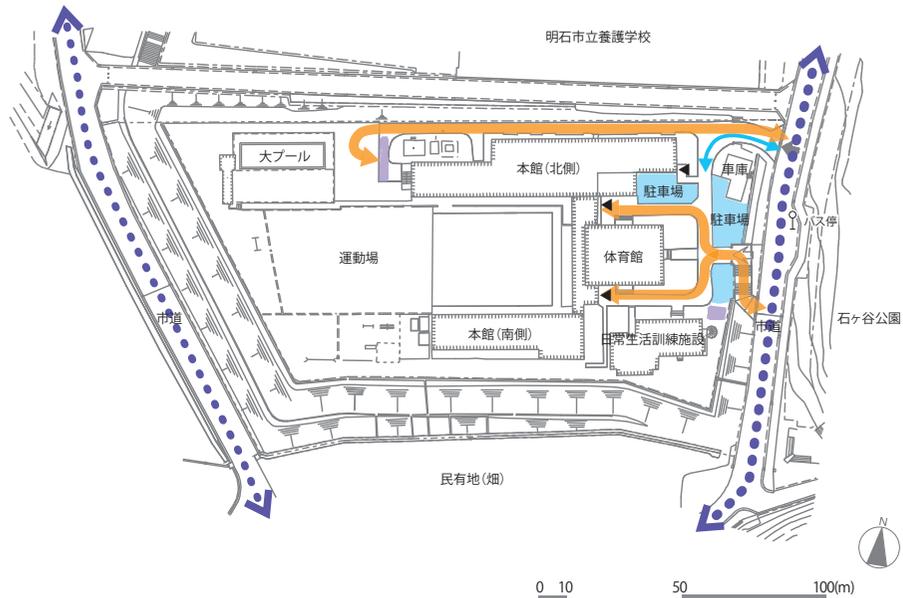
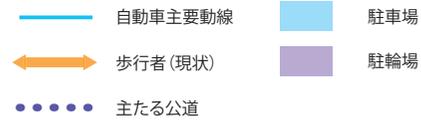
4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画(キャンパス別)

4-2-8. 大久保キャンパス

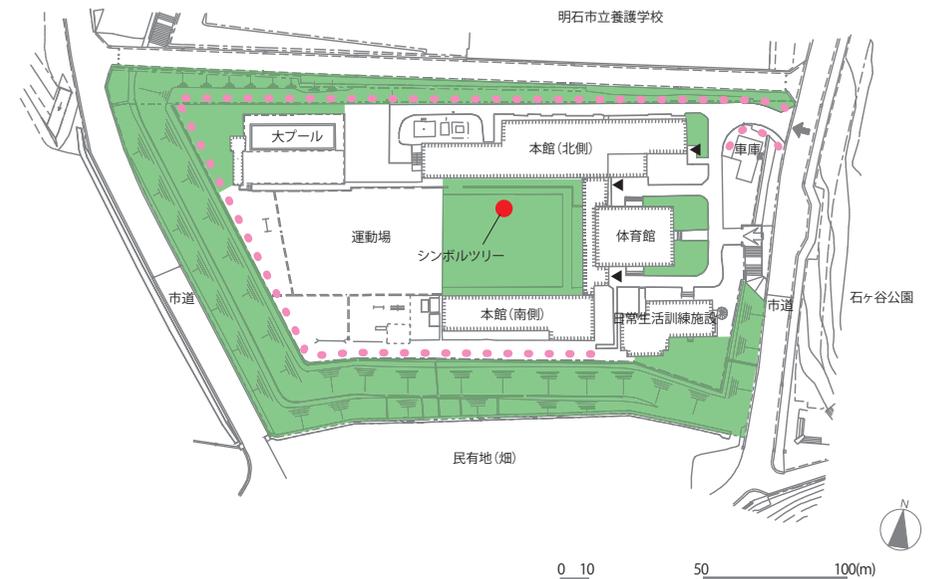
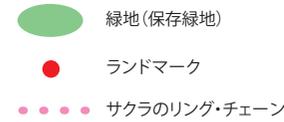
(5) キャンパス動線計画

- ユニバーサルデザインによる動線整備を推進する。
- 歩車分離を図り、生徒、児童、来訪者の安全化を図る。
- 生徒・児童・外来者にやさしいサインを整備する。



(6) 景観計画(緑地計画とランドスケープデザイン)

- 敷地周囲の豊かな既存緑地の維持保全に努める。
- 景観及びエコロジー意識の向上に資する緑化を推進する。
(広場・駐車場・屋上・壁面緑化等)
- 敷地と施設の配置の特性を生かし、連続した桜の並木による二重の桜のリングを形成する。
- 明石の土地に根ざした、日本古来の樹木を植えます。
(モモ、クリ、カキ、グミ等)



4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-3. 部門別計画 (キャンパス共通)

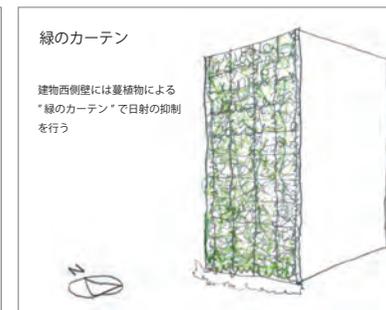
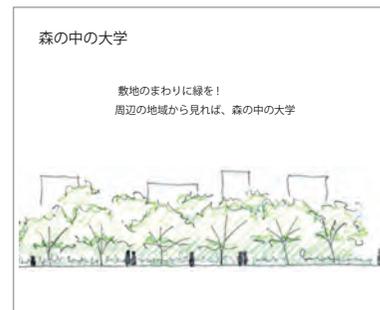
(1) エコキャンパス計画

大学キャンパスは、数百から数万人もの学生や教職員が集う、教育・研究等の様々な活動の場であるため、それに伴う膨大なエネルギー消費があり、その結果生じる大きな環境負荷に対して自力で対処する責務がある。そのためには CO2 削減方針やマネジメント方針など学内で共有する必要がある。

神戸大学は、独自の環境憲章にも謳われている通り、教育研究拠点として大学における全ての活動を通じて地球環境の保全と持続可能な社会の創造に取り組んでいるところである。その活動の場となるキャンパスにおいてもこれに寄与すべく、環境への配慮が求められている。

神戸大学のキャンパスには、環境向上につながる資源として、敷地周辺に豊富な自然環境がある。海と山に囲まれたキャンパスには常に心地よい風が吹きぬけ、南向きの斜面は太陽光を建物に取り込みやすく、豊富な自然林は熱したキャンパスを冷ますと同時に、排出した二酸化炭素を吸収する。

今後、エコキャンパスにつながる整備方針としては、これらの自然エネルギーをパッシブな手法を用いてキャンパスに取り込み、環境負荷の軽減に役立てる。同時に、景観にも大きく寄与するこれらの自然環境を建物の屋上緑化・壁面緑化、斜面緑化、ビオトープの整備等により有機的に繋いでいくことで、キャンパス内に心地よい持続的なエコロジー空間を生み出し、キャンパス利用者の環境に対する意識の向上に繋げる。



エコキャンパス化のイメージ

4.8 つのキャンパスの部門別計画

4-3. 部門別計画 (キャンパス共通)

(2) スペース有効利用計画

大学にとって、知の拠点として人材を育成し、国際競争力のある学術研究を行う上で、これらの諸活動の基盤となる教育研究環境の充実は不可欠である。

このためには、大学施設の維持管理・運営において、経営的視点を踏まえて施設を整備するとともに、所有する既存施設を管理し、有効活用を図る必要がある。その場合、施設マネジメントをトップマネジメントの一環として位置付け、全学的かつ長期的な視点に立った施設マネジメントを推進する必要がある。

● 施設マネジメントに取り組む上での基本的な3つの視点

- 大学の施設マネジメントにおいては、施設の質の管理（クオリティマネジメント）、施設の運用管理（スペースマネジメント）、施設にかかるコスト管理（コストマネジメント）という3つの視点から具体的な目標を立て、これらについて調和を図りつつ、推進することが重要である。



スペースマネジメント

全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて、適切に配分するとともに、不足する場合には新増築等施設の確保を行い、施設を有効に活用すること

クオリティマネジメント

施設利用の要望に配慮しつつ、安全及び教育研究等の活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図ること

コストマネジメント

クオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の観点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図ること

● スペースマネジメントによる弾力的・流動的スペースの創出

- 大学の教育研究の進展に柔軟かつ機動的に対応するためには、施設の有効活用が不可欠である。このため、学内においてスペースの使用状況を把握するとともに、教育研究の変化に対し弾力的にスペース配分を行う明確なルールの見直しが必要である。
- 従来の学科や講座単位での管理運営の手法では、スペースの硬直化や同機能のスペースの重複による非効率な施設利用の問題がある。既存施設の有効活用を図る観点から施設利用の見直し、スペースの再配分を行い、利用率の低いスペースの集約を図る必要がある。
- 教育・研究のためのスペースは、固定的に利用を限定するのではなく、時間や期間を限定した弾力的・流動的利用を推進していく。
- 斜面地に展開するキャンパスの特性を活かしたスキマスペース、アキスペースなどを弾力的に利用することを考える。

● 施設の使用状況等のデータの一元的管理システムの導入

- スペースマネジメントを効果的かつ効率的に行う上で、各建物の用途毎の面積と稼働状況、備品等や施設に係るコストについて、一元的に定期的に（年1回ぐらい）整理できる情報管理システムの構築をめざす。
- 教育・学習スペースや課外活動スペースの広さ、機能及び使用状況等を速やかに施設利用者に提供し、利用予約が可能な情報システムを構築することを検討する。

● 施設のレンタル制とスペースチャージの導入

- 施設のレンタル制とスペースチャージを導入し、スペースの流動化を図り、施設の有効利用に対するユーザー意識の改革を促進する。
- 学科や講座が占有する講義室等を全学共通化することにより稼働率を上げ、プロジェクト研究スペース等の確保を新たに行う。
- スペースチャージによる資金を適切な教育研究活動を保持していくための維持管理費用として使用し、一層の施設の充実を図る。

● 大学施設における学外利用の推進

- ホールやギャラリー、講義室等について、休日や利用のない時間帯に限り、学外の個人や団体への貸し出しを推進する。
- 学外利用により発生した資金について、適切な教育研究活動を保持していくための維持管理費用として使用し、一層の施設の充実を図る。

取り組むべき課題

5

5. 優先して取組むべき課題について

神戸大学らしさが光る魅力的なキャンパス創りをすすめていくためには、新たな課題に学生・教職員が一丸となり取組んでいく必要がある。

5-1. 優先して取組むべき課題について

○既存施設の有効活用

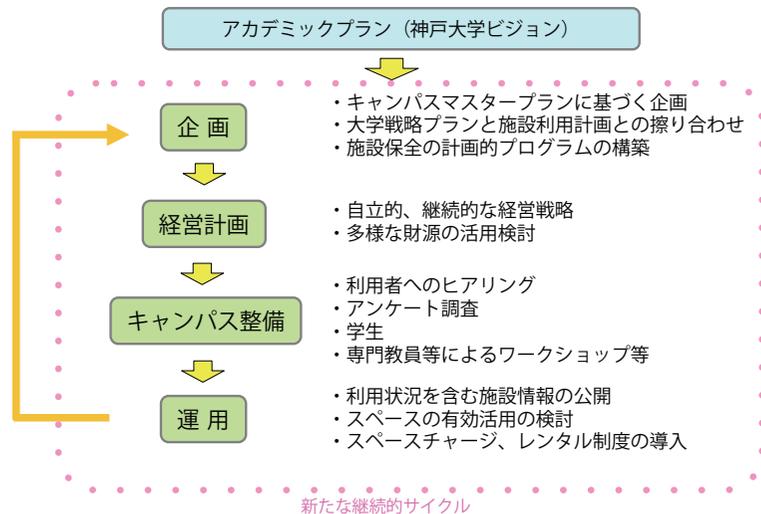
老朽化した施設が増加する状況において、これまでの「面積獲得」を基本にした施設整備のあり方を見直し、インフラ長寿命化計画に基づいた改修を行い、限られた予算で既存施設を有効活用することが必要である。「施設は借りもの」という認識をもち、スペースチャージ、施設のレンタル制度の導入の検討もすすめる。不用備品、書籍等は貴重なスペースを占有し、所有者・責任所在が不明になることも多く、捨てるべきもの、遺すべきものの評価、選別の点検方法やリユースも含め、その保存活用の手法をテッドスペースの活用と併せて検討をすすめる。

○全学的視点によるプラン創り

今後、取組むが必要な課題は戦略的な施設マネジメントによる適切な維持管理である。老朽化等により良好な教育研究環境が損なわれる恐れがあることから、予算確保や実施方法等について全学的視点で検討する必要がある。
新たな体制として、各学系の教員に参画頂き、経営的視点や全学的視点によるプラン創りの検討をすすめる。

○新たなマネジメント体制の構築

新たな神戸大学ビジョンに基づいた戦略的なキャンパス整備を図るべく、マネジメント体制や計画スキームの検討に取組む必要がある。



○デザインガイドラインの検討

卒業生の思い出につながる、記憶を継承するキャンパスを創っていくには、キャンパスの個性を形成するデザイン要素について考察を深めていかなければならない。よいものについては残すべき資源として評価し、これらを保存しながら新たなデザインの息吹をもたらすための指針として、神戸大学独自のデザインガイドラインが必要である。なお、作成にあたっては周辺地域との調和および統一のとれた景観への留意が求められる。

○インクルーシブキャンパスに向けて

神戸大学六甲台キャンパスは六甲山系のふもとに位置し、急勾配の坂が多くある。多様な学生を受け入れるためにはソフト面での対応に加え、ハード面の支援が必要である。特に車椅子利用者等の修学のため、バリアフリー計画を推進しキャンパスの高低差解消の実現を目指す。
また、学生が多様化する状況において、様々な学生の修学を支援する施設整備の検討が必要である。

○カーボンニュートラルに関する取り組み

神戸大学は国が主導する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参画し、地域ゼロカーボンやカーボンニュートラルを加速するイノベーション創出に取り組んでいる。キャンパスのゼロカーボン化に向けて、既存施設の断熱性能の強化や高効率機器の導入等の省エネ改修や太陽光発電等による創エネ等の検討が必要である。

○産業界・地方公共団体や地域住民との「共創」による社会・経済への貢献

国立大学は、知と人材の集積拠点として、地域住民・行政・教育研究機関・企業等、社会の様々なステークホルダーとの連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点となることが期待されている。「共創」拠点（イノベーションコモンズ）の実現に向けて大学関係者・学生・企業関係者が利用するオープンイノベーションラボ整備の検討が必要である。
また、災害時における医療の提供や物資の供給など、地域の実情に応じた防災拠点となるよう、ライフライン等を含めた施設の強靱化を行う必要がある。

資料

6

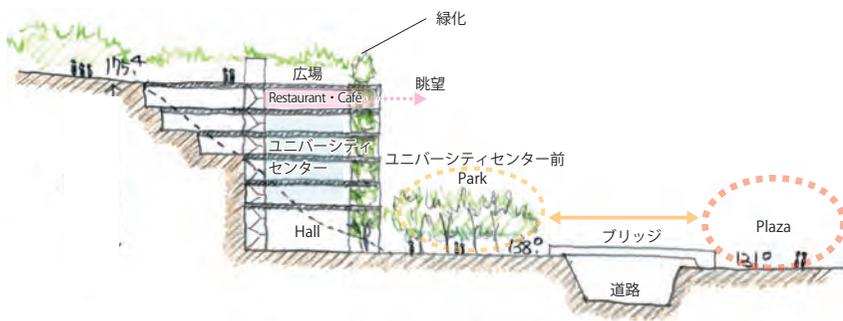
6. 資料

6-1. 斜面地活用のケーススタディ

斜面地を有するキャンパスにて“TSUNAGU”を実現すべく、その活用手法についてケーススタディーを行う。

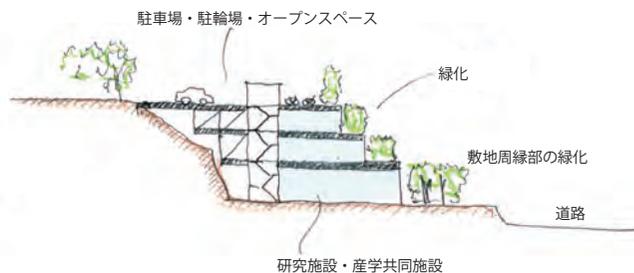
● CASE1

各団地の接続の要衝として、各キャンパス間の移動動線のバリアフリー化に資する整備を行うと共に、シンボリック施設（ユニバーシティセンター）として課外活動等の学生生活をサポートする施設の計画を行う。



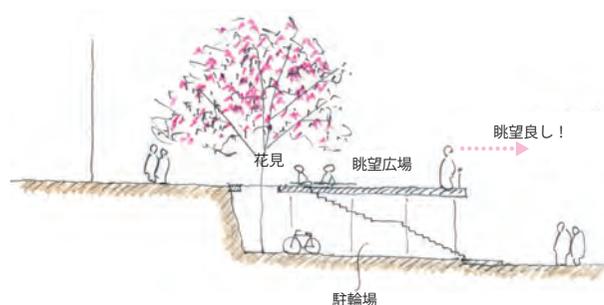
● CASE2

斜面地を利用した建物構成を計画し、上層は駐車場・駐輪場やオープンスペースとして利用する。下層は研究施設・産学共同施設として利用できる施設を計画する。



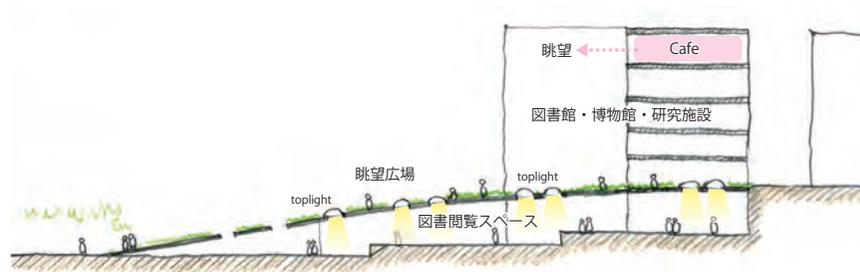
● CASE3

既存の大きな木々を活かし、上層は広場として、下階は駐輪場として利用する。南側の眺望確保にあたってはアイレベルを確保するため、眺望を遮る建物への働きかけが必要となる。



● CASE4

メディアセンターとなる施設と共に、傾斜した人工地盤による“緑の丘”を設け、その下部に地域住民も利用可能な図書閲覧スペース等を設ける。



6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

A キャンパスを取り囲む山と海の景観



■【六甲台】正門階段上より神戸市街地を眺める



■【六甲台】アカデミア館より六甲台本館を眺める



■【六甲台】学生会館より鶴甲1団地と六甲の山並みを眺める



■【六甲台】本部管理棟より神戸の街並みを眺める

6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

B キャンパス内の優れた建築物



■【六甲台】本館



■【六甲台】六甲台講堂



■【六甲台】本館 エントランスホール



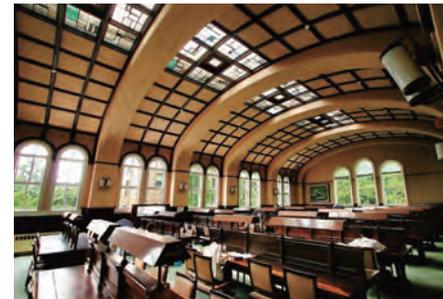
■【六甲台】本館 貴賓室



■【六甲台】武道場



■【六甲台】神大会館



■【六甲台】社会科学系図書館 大閲覧室



■【六甲台】神大会館 六甲ホール



■【六甲台】アカデミア館



■【六甲台】山口誓子記念館



■【六甲台】神大会館 プラットホーム



■【六甲台】六甲台講堂聴衆室

資料
8つのキャンパスの部門別計画
8つのキャンパスの部室計画
8つのキャンパスの部室計画
8つのキャンパスの部室計画

資料
8つのキャンパスの部門別計画
8つのキャンパスの部室計画
8つのキャンパスの部室計画
8つのキャンパスの部室計画

6. 資料

6-2. 遺すべき景観とデザイン

C キャンパス内の優れた公共空間（街路及びオープンスペース）



■【六甲台】自然科学総合研究棟3号館南



■【六甲台】人間発達環境学研究科本館前



■【六甲台】自然科学総合研究棟3号館前



■【深江】繋船池と実習船



■【六甲台】文学部本館前



■【六甲台】工学部本館前



■【名谷】本館南



■【住吉】教室棟中庭



■【六甲台】ウリボーロード



■【六甲台】神大会館前



■【名谷】研究実習棟前



■【六甲台】文学部新館前



神戸大学キャンパスマスタープラン

平成25年3月 策定 役員会承認

平成28年6月 改訂 役員会承認

平成29年3月 改訂 役員会承認

平成30年3月 改訂 役員会承認

令和4年3月 改訂 役員会承認

〈企画・編集〉

キャンパスマスタープラン検討ワーキンググループ

神戸大学施設部

〈お問い合わせ〉

神戸大学施設部施設企画課

TEL 078-803-5173

FAX 078-803-5099